

97-392



1200600303457

97

392

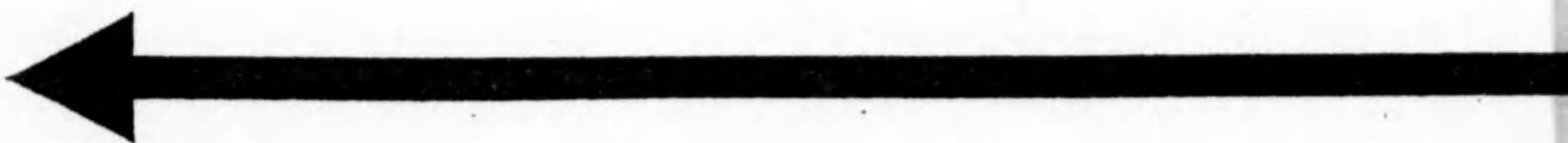
昭和七年

帝國學士院一覽

(昭和七年六月始編)



始



97-392



•1200600303457•

97

392

昭和七年

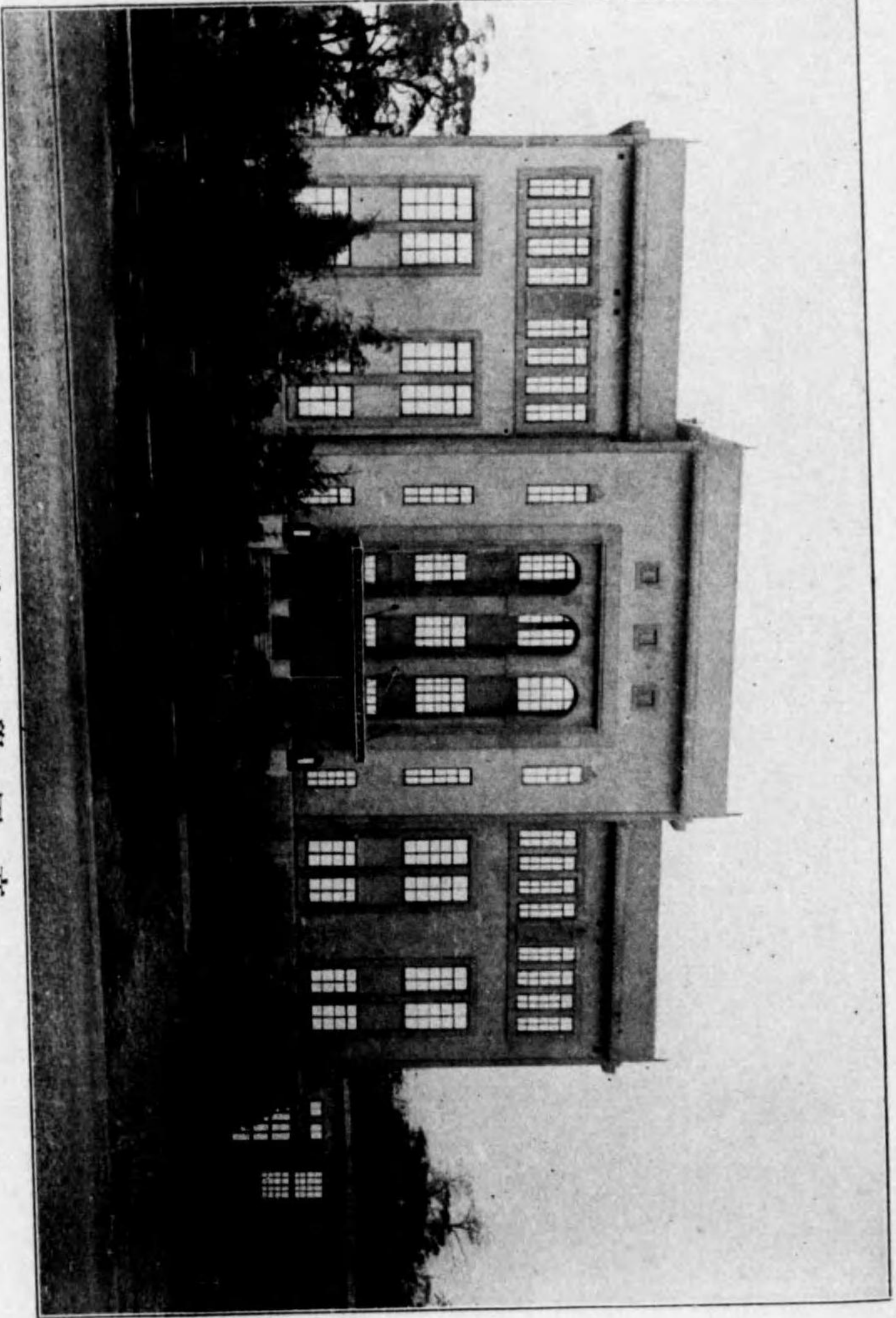
帝國學士院一覽

(昭和七年六月始調)

97
3922



80W39682



帝國學院會館

帝國學士院一覽

目次

第一	本院會館寫真	卷頭
第二	沿革略	一頁
第三	帝國學士院規程	二四
第四	帝國學士院會則	三〇
第五	帝國學士院長職務規程	三六
第六	帝國學士院授賞規則	三七
第七	帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律	四〇
第八	貴族院帝國學士院會員議員互選規則	四一
第九	貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ様式ニ關スル閣令	五〇
	學術研究獎勵金運用委員會規則	五〇

目

次

一

第十	恩賜賞ニ關スル決議	五二
第十一	寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議	五二
第十二	條件附寄附金ニ關スル決議	五四
第十三	藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議	五四
第十四	末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	五五
第十五	松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議	五六
第十六	大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	五七
第十七	小池厚之助寄附獎學資金ノ使途ニ關スル決議	五八
第十八	メンデンホール寄附獎學資金ノ使途ニ關スル決議	五九
第十九	學術研究費補助ニ關スル決議	六〇
第二十	高松宮家へ推薦スヘキ有栖川宮記念學術獎勵資金受領候補者選定ニ關スル決議	六二

第二十一	學術研究費補助推薦ニ關スル決議	六三
第二十二	出版ニ關スル決議	六四
第二十三	帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議	六四
第二十四	學術研究獎勵金	六六
第二十五	出版物	七八
第二十六	學術報告	八〇
第二十七	授賞事項及受賞者	八九
第二十八	補助研究事項	一〇二
第二十九	有栖川宮記念獎學資金受領候補者トシテ高松宮家へ補助推薦ノ研究事項	一一三
第三十	東照宮三百年祭記念會へ補助推薦ノ研究事項	一一四
第三十一	藤田男爵獎學費受費者	一一六
第三十二	子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品受品者	一一七
第三十三	役員	一一七

第三十四	會員及客員	一一八
第三十五	各部分科並ニ定員	一二五
第三十六	委員及事業擔當會員、囑託員	一二六
第三十七	事務職員	一三〇
第三十八	帝國學士院前役員	一三一
第三十九	帝國學士院前會員及客員	一三二
第四十	元東京學士會院役員	一三八
第四十一	元東京學士會院會員及客員	一四〇
第四十二	昭和七年五月十日第二十二回授賞式ニ於ケル櫻井 院長ノ演說	一四五
	本院敷地及建物略圖	一葉

帝國學士院一覽

(昭和七年六月始)

第一 沿革略

帝國學士院ハ元東京學士會院ト稱ス其ノ起源沿革左ノ如シ
 明治十一年 ○十二月 文部卿西郷從道當時文部省雇顧問タリシ米
 人マレー氏ノ建議ニ由リ學士會院ノ必要ヲ認メ乃チ東京學士會院
 規則大意及選舉案ヲ西周、加藤弘之、神田孝平、津田真道、中村正直、福澤
 諭吉、箕作秋坪ノ七名ニ諮詢シ其ノ協賛ヲ得テ之カ創設ヲ決定ス
 同 十二年 ○一月 文部大輔田中不二麿(文部卿)右西周以下ノ七名
 ヲ東京學士會院ノ會員ニ選舉シ其ノ報帖ヲ交付シ文部省内修文館
 ヲ假用シテ東京學士會院ヲ置ク ○四月 東京學士會院規則ヲ定ム
 其ノ要項ハ教育ノ事ヲ討議シ學術技藝ヲ評論スルヲ目的トシ會員
 ハ四十名ヲ限リ會院ニ於テ選舉シ文部卿ノ認可ヲ經ルノ制ナリ ○
 五月 東京學士會院雜誌ヲ發行ス

明治十三年 ○九月 會院ヲ湯島昌平館ニ移ス
 同 十四年 ○四月 會院ヲ修文館ニ移ス
 同 十五年 ○一月 會院ヲ再ヒ昌平館ニ移ス○十二月 昌平館類
 燒ニ罹リ本院會場器具及藏書百七十部ヲ燒失ス尋テ本院ヲ修文館
 ニ假設ス
 同 十七年 ○十月 會院ヲ東京教育博物館(上野)ニ移ス
 同 十八年 ○二月 文部卿大木喬任東京學士會院組織大綱ヲ示ス
 其ノ要旨ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ圖ルニ在リ會員
 ハ帝室ノ御選ニ係ル者十五名會員ノ推選ニ係ル者二十五名ヨリ成
 ル○四月 更ニ右大綱ニ基キ新ニ會則ヲ定メ同年九月ヨリ實施ス
 同 十九年 ○一月 會員ノ講演ヲ公開ス○十一月 會院ヲ東京教
 育博物館構内新築館(上野)ニ移ス
 同 二十三年 ○十月 勅令第二百六十四號東京學士會院規程發布
 ○十一月 會則ヲ定ム

同 二十五年 ○十二月 廣ク公衆ノ覽ニ供スルノ目的ヲ以テ會員
 西周寄贈ノ先哲遺墨及群鳥跡ヲ帝國博物館(後東京帝室博物館)ト改
 稱ニ寄託ス
 同 二十八年 ○三月 勅令第十七號東京學士會院規程補則發布
 同 三十三年 ○五月 皇太子殿下御婚儀奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス
 同 三十四年 ○六月 定期刊行ノ東京學士會院雜誌ヲ廢シ同年七
 月ヨリ東洋學藝社ト契約シ毎月講演ノ論說及記事等ハ同社ノ雜誌
 ニ掲載スルコト、ス(後五年ニシテ之ヲ解ク)
 同 三十九年 ○六月 勅令第四百四十九號帝國學士院規程發布○七
 月 會則ヲ改正ス○役員ノ選舉ヲ行ヒ院長加藤弘之、幹事重野安釋、
 第一部々長穗積陳重、第二部々長男爵菊池大麓當選就任ス○和算史
 調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手ス○十二月 會則ヲ改正ス○萬國
 學士院聯合會ニ加入ス
 同 四十年 ○四月 會員重野安釋、同男爵菊池大麓、奧國キエナニ於

ケル第三回萬國學士院聯合會へ委員トシテ參列被仰付○七月出版ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議ヲ議定ス○十一月會則ヲ追加ス○出版ニ關スル決議ヲ修正ス○十二月帝國學士院紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ議定ス

明治四十一年 ○六月 伊能忠敬測地事蹟ヲ調査スルコトヲ議決シ同年八月着手

同 四十二年 ○一月 燃黎室記述調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手
ス○羅馬法ニ關スル書籍ノ翻譯出版ノ件ヲ議決ス○三月 前年着手シタル假名遣及假名字體沿革史料ノ出版成ル○四月 哲學字彙刊行ノ件ヲ議決ス○六月 會員中島力造本院代表者トシテライプ
チヒ大學創立五百年祝賀式ニ參列ノ件ヲ議決ス○役員ノ改選ヲ行
ヒ院長菊池大麓幹事宮崎道三郎第一部々長穗積陳重第二部々長古
市公威當選七月就任ス

同 四十三年 ○四月 會員櫻井錠二ヲ伊國ローマニ於ケル第四回

萬國學士院聯合大會へ本院代表トシテ參列ノ件ヲ議決ス○五月會員三浦謹之助へ本院會員ノ代表者トシテベルリン大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス○七月 左ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院ノ目的ヲ遂行スル爲メ普ク學術ノ研究ヲ獎勵スル旨趣ヲ以テ授賞ノ制ヲ定メントスルノ計畫有之候趣被
聞食特ニ賞典資トシテ本年ヨリ十箇年間年々金貳千圓下賜
候事

明治四十三年七月五日

宮 内 省

○十月 本院授賞規則ヲ定ム
同 四十四年 ○二月 恩賜賞ニ關スル決議ヲ議定ス(四月追加議決)○三月法律第三十八號帝國學士院學術獎勵金特別會計法發布○勅令第六十九號帝國學士院學術獎勵金特別會計規則發布○五月 恩賜賞々牌及同賞記ニ菊花御紋章附着ノ儀ヲ允許セラル○六月 會員大森

房吉へ本院代表トシテプレスラウ大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委
囑ス○七月 初メテ授賞式ヲ行フ(受賞者等別項ニ記ス以下同シ)○十月 男爵三井八
郎右衛門及男爵岩崎久彌寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議
決ス(寄附金第一號)○十一月 出版ニ關スル決議ヲ修正ス○寄附金ヲ
以テスル賞ニ關スル決議ヲ議定ス○十二月 紀事出版ニ關スル第
二部決議ヲ廢シ更ニ紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議ヲ議定ス
明治四十五年 ○五月 第二回授賞式舉行○寄附金ヲ以テスル賞ニ
關スル決議ヲ修正ス○六月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長菊池大麓、幹事
宮崎道三郎、第一部々長穂積陳重、第二部々長古市公威當選七月就任
ス○十月 工學博士藥學博士高峯讓吉寄附申出ノ學術研究獎勵金
受領ノ件ヲ議決ス(第三號)○十二月 男爵住友吉左衛門寄附申出ノ學
術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第四號)
大正二年 ○四月 會員坪井正五郎ヲ露國聖彼堡得ニ於ケル第五回
萬國學士院聯合大會へ本院代表トシテ參列ノ件ヲ議決ス○五月

本年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス(以下毎年ノ議決ヲ省略シ補助事項ハ別項ニ掲ク)○七月 第
三回授賞式舉行○幹事宮崎道三郎辭任ニ付補缺選舉ヲ行ヒ櫻井錠
二當選同月就任ス○十二月 男爵古河虎之助寄附申出ノ學術研究
獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第五號)
同 三年 ○三月 萬國學士院聯合會評議員改選ニ付院長男爵菊池
大麓、第一部々長穂積陳重ヲ評議員ニ選定ス○七月 第四回授賞式
舉行○十一月 著者名ノ書方ニ關スル件ヲ議決ス○十二月 勅令
第二百五十八號ヲ以テ帝國學士院會員ハ勅任官ヲ以テ待遇セラレ
ヘキ旨公布セララル
同 四年 ○六月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長菊池大麓、幹事櫻井錠二、第
一部々長穂積陳重、第二部々長古市公威當選七月就任ス○六月 法
律第十二號帝國學士院學術獎勵金特別會計法ヲ廢止シ學術研究獎
勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ院長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得ヘキ旨
公布(施行期大正五年四月一日)○七月 第五回授賞式舉行○十月 男爵藤田平太

郎寄附申出ニ係ル學術研究獎勵金並ニ羅馬法學書出版費受領ノ件ヲ議決ス(第六號)○十一月 御即位奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス○院長菊池大麓本院會員總代幹事櫻井錠二御即位ノ大禮式ニ參列ス○十二月 東照宮三百年祭記念會ヨリ學術研究資金補助ヲ要スヘキモノ、推薦方ノ依頼アリ之カ受諾ヲ議決ス(以下毎年推薦ノ事項ハ別項ニ讓ル)

大正五年 ○四月 會則及授賞規則ヲ修正ス○六月 三井合名會社

社長男爵三井八郎右衛門寄附申出ノ出版費受領ノ件ヲ議決ス(第七號)

○山下龜三郎寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第八號)○

七月 第六回授賞式舉行○十月 立太子式奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス

同 六年 ○二月 故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一寄附申出

ノ桂學術獎勵基金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○藤田男爵獎學費給與ニ

關スル決議ヲ議定ス○七月 第七回授賞式舉行○十月 院長理學

博士男爵菊池大麓薨去ニ付補缺選舉ヲ行ヒ法學博士男爵穗積陳重

當選同月就任ス○故菊池大麓ノ擔當セシ和算史ノ調査ヲ藤澤利喜

太郎へ委囑スルコトヲ議決ス○十一月 第一部々長穗積陳重院長

ニ就任ニ付キ同部長ノ補缺選舉ヲ行ヒ井上哲次郎當選同月就任ス

○大正六年度羅馬法學獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス

(以下毎年同事項省略ス)

同 七年 ○四月 子爵夫人末松生子寄附申出ノ羅馬法獎勵資金受

領ノ件ヲ議決ス(第十號)○ロンドンニ於ケル聯合諸國「サイエンティフ

クアカデミース」代表者會議ニ本院代表トシテ會員櫻井錠二並ニ田

中館愛橋參列ノ件ヲ議決ス○五月 第八回授賞式舉行○六月 役

員ノ改選ヲ行ヒ院長穗積陳重幹事櫻井錠二第一部々長井上哲次郎

第二部々長古市公威當選七月就任ス○七月 子爵夫人末松生子寄

附羅馬法獎勵資金ノ使途ニ關スル決議ヲ議定ス○十月 大正七年

度採鑛冶金學及關係學科獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス

○大正七年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス

(以上二項以下毎年ノ議決ヲ省略ス) ○會則ヲ修正ス

大正八年 ○三月 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス○五月 皇太子殿下御成年式奉賀ノ爲天皇陛下並ニ皇太子殿下ニ賀表ヲ捧呈ス○萬國學術研究會議第一回總會ニ本院代表トシテ會員田中館愛橘參列ノ件ヲ議決ス

○第九回授賞式舉行○六月 學術研究會議設立ニ關スル建議書ヲ內閣總理大臣並ニ文部大臣ニ提出ス○パリニ於ケル萬國學士院聯合會ノ組織變更ニ關スル會議ニ本院代表トシテ會員高楠順次郎並ニ小野塚喜平次參列ノ件ヲ議決ス

同 九年 ○一月 次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院去ル明治四十三年授賞ノ制設定ニ際シ賞典資トシテ十ヶ年間々金貳千圓下賜ノ處成績顯著ニ付大正九年度以降引續十ヶ年間々下賜候事

大正九年一月七日

宮 内 省

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正九年一月七日

宮 内 省

○一月 組織變更後ノ第一回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表トシテ會員服部宇之吉並ニ織田萬參列ノ件ヲ議定ス○二月 帝室制度ノ歴史的研究ヲ本院ノ事業トシテ遂行スル件ヲ議決シ會員岡野敬次郎(主任)三上參次、美濃部達吉ヲ擔當委員ニ選定シ後更ニ服部宇之吉ヲ追加選定ス○五月 第十回授賞式舉行○八月 曩ニ建議セル學術研究會議設立ノ件ハ政府ノ容ルル所トナリ勅令第二百九十七號ヲ以テ同會議ノ官制公布セララル○十二月 學術研究會議第一回總會ヲ文部省内ニ招集シ會長副會長ノ選舉ヲ行ヒ會長古市公威副會長櫻井錠二當選シ院長穗積陳重ハ會長古市公威ニ對シ學術研究會議ニ關スル事務ノ引繼ヲ了ス

同 十年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

○第二回萬國學士院聯合會會議へ本院代表トシテ會員岡松參太郎並ニ三上參次參列ノ件ヲ議決ス○五月 第十一回授賞式舉行○六月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長穗積陳重、幹事櫻井錠二、第一部々長井上哲次郎、第二部々長藤澤利喜太郎當選七月就任ス○九月 皇太子殿下海外ヨリ御歸還奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス○十月 三井家總代男爵三井八郎右衛門及三菱合資會社社長男爵岩崎小彌太寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第一號及第二號)

大正十一年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

○第三回萬國學士院聯合會會議へ本院代表トシテ會員井上哲次郎並ニ美濃部達吉參列ノ件ヲ議決ス○二月 白耳義學士院創立百五十年祝賀式へ本院代表トシテ會員井上哲次郎、中村精男、平山信並ニ美濃部達吉參列ノ件ヲ議決ス○三月 白耳義學士院創立百五十年式ニ贈呈スヘキ祝賀文ヲ議決ス○四月 松方公爵米壽祝賀會發起人總代法學博士男爵阪谷芳郎並ニ平山成信寄附申出ノ松方公爵米

壽祝賀記念獎學資金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○松方公爵米壽祝賀會記念獎學資金ノ使途ニ關スル決議條項ヲ議決ス○五月 第十二回授賞式舉行○七月 財團法人原田積善會理事原田二郎寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○十月 男爵住友吉左衛門寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第四號)○十一月 來朝中ノ獨逸理學者アインシュタイン博士歡迎會ヲ植物園ニ於テ舉行シ歡迎ノ辭ヲ呈ス○十二月 第四回萬國學士院聯合會々議並ニ第五回萬國史學會々議へ本院代表トシテ會員上田萬年並ニ立作太郎參列ノ件ヲ議決ス

同 十二年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

○高峯保全株式會社取締役鹽原又策寄附申出ノ學術研究ノ賞又ハ資ノ基金(第十號)及三共株式會社取締役鹽原又策寄附申出ノ上記資金補充金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○二月 男爵古河虎之助寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第五號)○三月 寄附金ヲ以テスル

賞ニ關スル決議、松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議及ヒ
 學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス○四月 松方公爵米壽祝賀
 會發起人總代平山成信寄附申出ノ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金
 利子ニ加フヘキ獎學金受領ノ件ヲ議決ス(第十二號 追加ノ一號)○山下龜三郎寄附
 申出ノ國際關係ノ學事費受領ノ件ヲ議決ス(第九號)○五月 第十三回
 授賞式舉行○松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎寄附
 申出ノ同祝賀記念獎學資金受領ノ件ヲ議決ス(第十二號 追加ノ二號)○九月 大震
 火災ノ爲本院會議室ノ一部ヲ日本赤十字社福島支部救護班執務ノ
 爲提供シ尙罹災者收容ニ充ツ○十一月 大阪毎日新聞社長本山彦
 一寄附申出ノ東宮御成婚記念學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第十
 六號)○十二月 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス○大阪每
 日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術研究獎勵資金ノ使途
 ニ關スル條項ヲ議決ス○第五回萬國學士院聯合會々議へ本院代表
 トシテ會員松本亦太郎並ニ織田萬參列ノ件ヲ議決ス

大正十三年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

○第五回萬國學士院聯合會々議本院代表織田萬ノ後任トシテ在白
 大使安達峰一郎ニ參列委囑ノ件ヲ議決ス○一月 東宮殿下御慶事
 奉祝ノ爲賀表ヲ捧呈ス○五月 第十四回授賞式舉行○六月 役員
 ノ改選ヲ行ヒ院長穗積陳重幹事櫻井錠二第一部々長井上哲次郎第
 二部長佐藤三吉當選七月就任ス○十二月 米國人メンデンホール
 寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第七號)
 同 十四年 ○一月 第六回萬國學士院聯合會々議へ本院代表委員
 トシテ會員福田德三並ニ織田萬參列ノ件及在白大使安達峰一郎ニ
 參列委囑ノ件ヲ議決ス○學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル
 ○會員推選ニ關スル臨時手續ノ件ヲ議決ス○歐文紀事出版ノ新計
 畫ニ關スル件ヲ議決ス○五月 各部ニ分科設置並ニ其ノ定員ノ件
 ヲ議決ス○會員推選ニ關スル臨時手續法改正ノ件ヲ議決ス○小池
 厚之助寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第十
 八號)○勅令第二百

號帝國學士院規程改正ノ件公布○會則ヲ改正ス○第十五回授賞式
 舉行○勅令第二百三十三號貴族院帝國學士院會員議員互選規則公
 布○七月 紀事及別冊出版ニ關スル決議ヲ修正ス○八月 閣令第
 五號ヲ以テ貴族院帝國學士院會員議員ノ互選投票用紙投票用封筒
 及投票函ノ様式ニ關スル件公布○勅令第二百七十三號帝國學士院
 規程改正ノ件公布○九月 露國學士院創立二百年記念式へ本院代
 表トシテ會員福田德三派遣ノ件及祝文贈呈ノ件ヲ議決ス○小池厚
 之助寄附學術獎勵金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス○貴族院帝國學
 士院會員議員ノ第一回互選ヲ行ヒ第一部會員井上哲次郎、小野塚喜
 平次、第二部會員藤澤利喜太郎、田中館愛橘ノ四名當選、十月十日各右
 議員ニ勅任セラル○十月 極東熱帶醫學會第六回總會海外參列者
 歡迎ノ爲午餐會ヲ開ク○院長穗積陳重辭任ニ付キ同會員多年在職
 中ノ功勞ニ對シテ感謝狀ヲ呈スヘキコトヲ議決ス○十一月 院長
 辭任ニ因ル補缺選舉ヲ行ヒ會員岡野敬次郎當選同月就任ス○十二

月 第七回萬國學士院聯合會々議へ本院代表トシテ會員瀧精一派
 遣ノ件ヲ議決ス○學術研究費補助ニ關スル決議松方公爵米壽祝賀
 記念獎學資金ニ關スル決議及大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮
 御成婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議ヲ修正ス○サー・チャ
 ーレス・エリオットヲ客員ニ推舉ス

大正十五年
昭和元年

○一月 學術研究ノ費トシテ金壹萬圓下賜セラル
 ○ブルユセルニ於ケル第七回萬國學士院聯合會々議へ本院代表委
 員トシテ會員在白日本大使安達峰一郎ヲ參列セシムヘキ件ヲ更ニ
 議決ス○二月 院長岡野敬次郎薨去ニ付キ補缺選舉ヲ行ヒ會員幹
 事櫻井錠二當選シ同月就任ス○岡野節寄附申出ノ學術獎勵金及追
 加寄附金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○三月 幹事ノ補缺選舉ヲ行ヒ姊
 崎正治當選同月就任ス○來朝中ノ佛國醫科學士院幹事シャルル・ア
 シヤル博士並ニソルボヌ大學教授フシエ博士歡迎ノ爲晚餐會ヲ開
 ク○四月 小池厚之助追加寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決

ス○五月 第十六回授賞式舉行○九月 新築會館落成シ之ニ移轉
 ス○十月 高松宮家ヨリ有栖川宮記念獎學資金受領候補者選定方
 ノ御依頼アリ之カ受諾ヲ議決ス○小津清左衛門寄附申出ノ學術獎
 勵金受領ノ件ヲ議決ス(第二十號)○十一月 第三回汎太平洋學術會議海
 外參會者歡迎ノ爲午餐會ヲ開キ一同新會館ヲ參觀ス○第一部々長
 井上哲次郎會員ヲ辭任ス○十二月 第一部々長ノ補缺選舉ヲ行ヒ
 會員富井政章當選同月就任ス○第八回萬國學士院聯合會々議へ本
 院代表委員トシテ會員土方寧派遣ノ件及在白會員安達峰一郎參列
 ノ件ヲ議決ス○貴族院帝國學士院會員議員ノ補缺選舉ヲ行ヒ會員
 上田萬年當選同月二十一日同議員ニ勅任セラル

昭和二年 ○二月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル

○三月 ルヴン大學創立五百年記念式へ本院代表トシテ會員土方
 寧參列ノ件及祝文贈呈ノ件ヲ議決ス○ロードリスター誕生百年祭
 ニ祝電ヲ送ルヘキコトヲ議決ス○五月 第十七回授賞式舉行○六

月 有栖川宮記念獎學資金受領候補者推薦ノ件ヲ議決ス(以下毎年ノ同事項ハ省之)

○第十回萬國動物學會ニ本院代表トシテ五島清太郎ニ出席ヲ委囑
 ス○役員ノ改選ヲ行ヒ院長櫻井錠二、幹事姉崎正治第一部々長富井
 政章、第二部々長佐藤三吉當選七月就任ス○勅令第百八十二號ヲ以
 テ規程中改正ノ件公布○學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス○
 八月 西川虎吉ニ本院代表トシテマルスラン・ベルトロー百年祭ニ
 參列及祝文贈呈方ヲ委囑ス○十月 中澤つる寄附申出ノ學術研究
 獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第廿一號)○十二月 有栖川宮記念獎學資受領
 候補者推薦ノ件ヲ議決ス(以下毎年ノ同事項ハ省之)○第九回萬國學士院聯合會々
 議ニ本院代表トシテ會員安達峰一郎及吉田靜致參列ノ件ヲ議決ス
 同 三年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル

○學術研究獎勵金運用委員會設置ノ件及同委員會規則ヲ議定ス○
 四月 第十八回授賞式舉行○五月 コレジ・ド・フランス教授シルバ
 ン・レビ博士ヲ客員ニ推舉ス○七月 古籀篇刊行會理事長子爵渡邊

千冬寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス^(第廿)〇十一月 御即位ノ大禮奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス〇院長櫻井錠二、會員總代幹事姊崎正治御即位ノ大禮式ニ參列ス〇十二月 獨逸物理學者ゾンマーフェルト博士歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク

昭和四年 〇一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

〇第十回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表トシテ會員安達峰一郎及山田三良參列ノ件ヲ議決ス〇二月 ニューヨーク市學士院創立二十五年祝賀式ニ祝電贈呈ノ件ヲ議決ス〇四月 エヂンバラ大學總長サーアルフレッド・イウイングヲ客員ニ推舉ス〇第十九回授賞式舉行〇五月 元古籀篇刊行會理事服部宇之吉寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス^(第廿)〇六月 來訪中ノ米國カーネギーインステチユウシヨン世界磁力觀測隊指揮者オウルト以下六名ノ學者歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク〇十二月 本院創立五十年ニ相當スル趣被聞食會員ニ御陪食仰付ラル

同 五年 〇一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

〇第十一回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表員トシテ會員桑木嚴翼參列ノ件ヲ議決シ後會員立作太郎ニモ參列ヲ委囑ス^(當時在巴里)〇四月 メンデンホール寄附獎學金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス

〇五月 來朝中ノ佛國醫科學士院會員ジヨルジ・デユマ博士歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク〇第二十回授賞式舉行〇六月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長櫻井錠二、幹事姊崎正治、第一部々長富井政章、第二部々長佐藤三吉當選七月就任〇藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議ヲ修正ス〇八月 一般會計中帝國學士院費支出委任トナリ同時ニ院長ニ經理委任ノ學術研究獎勵金ノ出納事務移管トナル〇十月 院長職務規程ヲ改正ス〇十二月 左ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院賞典ノ資トシテ尙本年以降引續キ十ヶ年間年々金貳千圓下賜候事

昭和五年十二月六日

宮内省

昭和六年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル○第十
 二回萬國學士院聯合會々議本院代表員トシテ會員安達峰一郎ヲ出
 席セシムヘキコトヲ議定シ後(二)更ニ會員松波仁一郎ヲ代表員トシ
 テ派遣スヘキコトヲ議定ス○三菱合資會社ヨリ從來ニ引續キ學術
 研究獎勵金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スヘキコトヲ議定ス
 (第一號)○二月 三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ從來ニ引
 續キ學術研究獎勵金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スヘキコトヲ
 議定ス(第二號)○會員和田英松ヲ皇室制度ノ歴史的研究擔當委員ニ選
 定ス○四月 マックスウエル誕生百年祭、フアラデー電磁氣發見百年
 記念祝賀會及ブリタイシユ・アッソシエーション百年記念會ニ本院代表
 員トシテ會員長岡半太郎ヲ參列セシムヘキコトヲ議定ス○五月
 勅令第八十四號ヲ以テ帝國學士院規程(第十號)改正ノ件公布セラル○

第二十一回授賞式ヲ舉行ス○六月 ウィン大學名譽教授ウィン學
 士院會員ドクトル・ハンス・モーリシヲ客員ニ推舉ス○三井信託株式
 會社取締役社長米山梅吉ヨリ寄附申出ノ學術研究及發表助成資金
 受領ノ件ヲ議決ス(第三號)○七月 男爵住友吉左衛門ヨリ從來ニ引續
 キ學術研究獎勵金壹萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スヘキコトヲ議
 定ス○十一月 佛國法律學者カピタン教授歡迎午餐會ヲ催ス○十
 二月 第十三回萬國學士院聯合會々議並ニアムステルダム大學創
 立三百年記念祭ニ會員新村出ヲ代表員トシテ參列セシムヘキコト
 ヲ議定シ後會員織田萬ニモ參列ヲ乞フヘキコトヲ議定ス
 同 七年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル
 ○三月 鈴木三郎助ヨリ學術研究獎勵金トシテ有價證券額面金參
 拾萬圓寄附ノ申出アリ之ヲ受領スヘキコトヲ議定ス(第四號)○四月
 アムステルダム大學ニ贈呈スヘキ祝文ヲ議定ス

第二 帝國學士院規程

勅令第四百四十九號(明治三十九年六月十二日)(大正十四年五月改正)(昭和二年六月改正)(九月改正)(同六年五月改正)

帝國學士院規程

- 第一條 帝國學士院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ學術ノ發達ヲ圖リ教化ヲ裨補スルヲ以テ目的トス
- 第二條 帝國學士院會員ハ帝國學士院ニ於テ碩學中ヨリ推選シ勅旨ヲ以テ之ヲ命ス
- 第三條 外國人ニシテ帝國ニ於ケル學術ノ發達ニ關シ特別ノ功勞アル者ハ帝國學士院ニ於テ之ヲ客員ト爲スコトヲ得
- 第四條 帝國學士院ハ左ノ二部ニ分チ會員ハ各專攻ノ學科ニ依リテ之ニ分屬ス
 - 第一部 文學及社會的諸學科
 - 第二部 理學及其ノ應用諸學科

- 第五條 帝國學士院會員ノ定員ハ百人トス
- 第六條 帝國學士院ハ會議ヲ開キ學術及教化ニ關スル事項ヲ審議ス會議ハ總會及部會トス
- 第七條 帝國學士院會員ハ專攻ノ學科ニ付論文ヲ提出シ又ハ報告ヲ爲スモノトス
- 第八條 帝國學士院ハ學術ニ關スル論文、考案、資料等ヲ募集スルコトヲ得
- 第九條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於ケル學術上ノ團體ト共同シテ研究ヲ爲シ又ハ其ノ會員トナルコトヲ得
- 第十條 文部大臣ハ學術及教化ニ關スル事項ニ付帝國學士院ニ諮詢スルコトヲ得
- 第十一條 帝國學士院ハ少クトモ毎年一回院務ニ關スル報告書ヲ文部大臣ニ提出スヘシ
- 第十二條 帝國學士院ニ院長一人、幹事一人及部長二人ヲ置ク

院長及幹事ハ總會ニ於テ部長ハ部會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選ス
院長、幹事及部長ノ任期ハ三年トス

第十三條 院長ハ院務ヲ總理シ總會ニ於テ其ノ議長ト爲ル
院長事故アルトキハ幹事其ノ職務ヲ代理シ院長及幹事共ニ事故アルトキハ院長ノ指名シタル會員其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ院長ノ指揮ヲ受ケ院務ヲ掌理ス

部長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ部務ヲ掌理シ部會ニ於テ其ノ議長ト爲ル

第十四條 院長、幹事及部長ニハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 滿六十歳以上ノ會員ニハ特ニ年金ヲ給スルコトヲ得

第十六條 帝國學士院ニ主事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ文部部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ院長、幹事及部長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十六條ノ二 帝國學士院ニ書記專任二人ヲ置ク判任トス
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十七條 學術上ノ調査ノ爲會員中ニ於テ擔當者ヲ定メタルトキハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十八條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ會則ヲ定ムルコトヲ得

附 則

第十九條 東京學士會院規程及東京學士會院規程補則ハ之ヲ廢ス

第二十條 本令施行ノ際東京學士會院會員及客員タル者ハ本令ノ規定ニ依リ帝國學士院會員及客員タル者トス

第二十一條 東京學士會院規程第五條ニ依リテ年金ヲ受ケル者ハ本令施行ノ後仍同額ノ年金ヲ受ク

第二十二條 本令ノ規定ニ依リ帝國學士院長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院會長ニ於テ幹事及部長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院幹事ニ於テ其ノ職務ヲ行フヘシ

(參 照)

勅令第二百六十四號 (明治二十三年十月二十五日官報)

東京學士會院規程

第一條 東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ謀ランカ爲ニ設クル所ニシテ文部大臣ノ管轄ニ屬ス

第二條 東京學士會院ハ耆德碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其ノ選出ノ方法及人員左ノ如シ

(參照)東京學士會院規程

(參照)東京學士會院規程

- 一 帝室ノ特選ニ依ル會員十五名
 - 一 會員ノ推選ニ依ル會員二十五名
- 會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス
會員ハ終身トス

第三條 東京學士會院會員ハ各自專攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス

第四條 東京學士會院ハ學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得

第五條 東京學士會院會員滿六十歲以上ノ者十名以内ヲ限リ特ニ各年金三百圓賜フコトアルヘシ

第六條 東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ク

會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セラレルコトヲ得

第七條 會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルトキハ幹事ノ内一人ヲ指定シテ其任務ヲ代理セシム

幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ掌理ス

第八條 削除(二十六年勅令第五十九條ヲ以テ削除)

第九條 東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長幹事ニ屬シテ庶務ニ従事ス

第十條 東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設クルコトヲ得

勅令第十七號 (明治二十八年三月八日官報)

東京學士院規程補則

外國ノ耆德碩學ニシテ特ニ帝國ニ對シ功勞アル者ハ會員ノ推選ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ客員トナスコトヲ得

勅令第二百號 (大正十四年五月二十一日官報)

(參照)

明治三十九年六月十三日勅令第四百十九號帝國學士院規程抄錄

第五條 帝國學士院會員ノ定員ハ六十人トス

勅令第二百七十三號 (大正十四年九月二日官報)

(參照)

明治三十九年六月十三日勅令第四百十九號帝國學士院規程抄錄

第十三條 第二項

院長事故アルトキハ幹事其ノ職務ヲ代理ス

勅令第八十二號 (昭和二年六月十六日官報)

(參照)

明治三十九年六月十三日勅令第四百十九號帝國學士院規程抄錄

第十二條 第一項及第二項

帝國學士院ニ院長一人、幹事一人及部長二人ヲ置ク

(參照)東京學士會院規程 帝國學士院規程抄錄

院長及幹事ハ總會ニ於テ、部長ハ部會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
勅令第八十四號（昭和六年五月十一日官報）

（參照）

明治三十九年六月十三日勅令第四百九十九號帝國學士院規程抄錄

第十六條 帝國學士院ニ書記四人ヲ置キ文部省所屬ノ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ院長、幹事及部長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第三 帝國學士院會則

明治三十九年七月一日	議決	同月四日	文部大臣認可
同三十九年七月廿二日	議決	同月十九日	文部大臣認可
同四十年七月廿二日	追加議決	同月廿二日	文部大臣認可
同四十年三月廿二日	修正議決	同月十一日	文部大臣認可
同四十年五月廿二日	修正議決	同月廿八日	文部大臣認可
同十四年五月廿二日	修正議決	同月廿九日	文部大臣認可

第一條 帝國學士院會員ノ定員ハ各部五十人トス

各部ニ分科ヲ設クルコトヲ得

分科ノ種類及其ノ定員ハ各部ニ於テ之ヲ定メ總會ノ承認ヲ經ヘシ

第二條 會員ヲ推選セントスルトキハ當該部會ニ於テ投票ヲ以テ先

ツ候補者ヲ豫選シ其ノ最多數ヲ得タル者三人ヲ以テ候補者トス

候補者ニ缺員ヲ生シタル場合ニ於テハ補缺豫選ヲ行フ

候補者ニ付キ當該部會ニ於テ決選投票ヲ行ヒ外國ニ在リテ投票ヲ

爲サル者ヲ除キタル部會員三分ノ二以上ノ多數ヲ得タル者ヲ當

選者トシテ總會ノ認可ヲ經テ之ヲ會員ニ推選ス

前項ノ多數ヲ得タル者ナキトキハ更ニ決選投票ヲ行ヒ尙ホ當選者

ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ候補者ノ改選ヲ行フ

第三條 候補者ノ豫選及會員ノ推選ハ少クトモ三週間以前院長ヨリ

之ヲ會員ニ通知ス

第四條 客員ヲ推舉セントスル者ハ當該部會員五人以上ノ賛成ヲ得

テ部會ニ發議スルコトヲ得

客員ノ選定ニ關シテハ第二條第三項及第三條ノ規定ヲ準用ス

第五條 院長幹事及部長ノ選舉ハ最多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

院長幹事及部長ハ六月ニ之ヲ選舉シ七月ニ至テ就任ス但シ六月ニ

選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ遞次之ヲ繰延フルコトヲ得此場合ニ於テハ後任者ノ就任スルニ至ル迄仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ取扱フ後任者ノ任期ハ其ノ就任ノ時期ニ拘ラス七月ヨリ之ヲ起算ス

第六條 投票ハ總テ無記名トス
病氣其ノ他ノ事故ニ依リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投票スルコトヲ得

第七條 第二條第一項及第五條第一項ノ場合ニ於テ投票同數ナルトキハ年長者ヲ以テ當選者トス

第八條 總會ハ院長部會ハ部長之ヲ招集ス
通常總會ハ毎月一回之ヲ開ク但シ八九兩月ハ開會セス
院長ノ見込ニ依リ又ハ會員五人以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第九條 總會及部會ハ在東京會員ノ三分之一以上ニ相當スル出席員アルニアラサレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

議決ハ出席員ノ過半數ニ依ル

第十條 總會及部會ノ議長ハ議決ノ數ニ加ハラス但シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十一條 帝國學士院規程第七條ノ論文ノ提出及報告ハ總會又ハ部會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

帝國學士院會員ニ非サル者ノ論文又ハ報告ハ會員之ヲ紹介シテ總會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得

論文及報告ハ之ヲ印刷シテ學者學會學校等ニ配付スルコトアルヘシ

論文及報告ノ會議ハ傍聽ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 總會又ハ部會ノ議決ニ依リ講演ヲ公開スルコトアルヘシ

第十三條 部ハ總會ノ認可ヲ經テ部則ヲ定ムルコトヲ得

第十四條 部會ノ開會及議決ハ部長ヨリ之ヲ院長ニ報告スヘシ

第十五條 院長ハ毎年一回總會ニ於テ前一年間ノ院務ノ要項ヲ會員

ニ報告スヘシ

部長ハ毎年一回前一年間ノ部務ノ要項ヲ院長ニ報告スヘシ

第十六條 部長事故アルトキハ會員ノ一人ニ其ノ職務ヲ委託スルコトヲ得

附 則

第十七條 各部ニ於ケル會員ノ數四十五人ニ充ツルマテハ第二條及第三條ノ規定ニ依ラス總會ニ於テ會員ニ推選スヘキ者ヲ選定ス

會則第九條第一項ニ關スル決議 (大正元年十月十二日總會議決)

帝國學士院會則第九條第一項ハ總會又ハ部會ヲ開キ諸般ノ報告ヲ受ケ及學術上ノ論文ノ提出アルヲ妨ケス

會則第十一條第二項ニ關スル決議 (大正五年三月十二日總會議決)

會則第十一條第二項ノ場合ニ於テハ本人ナシテ論文又ハ報告ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得

(參照)

東京學士會院會則 (明治二十三年十一月九日議決同月二十六日文部大臣認可)

第一條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ投票ヲ以テス投票同數ナレハ年長者ヲ取ル

第二條 會長幹事ハ毎年十二月ニ於テ改選シ翌年一月ヨリ就職スルモノトス

第三條 會長幹事ハ發案討論ヲ爲スコト總會員ニ同シ

會長幹事議長ノ任ニ當ルトキハ可否ノ數ニ加ハラズ但可否同數ノ場合ニ於テハ議長之ヲ決ス

第四條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ在京會員ノ投票ヲ以テス但缺席者モ之ヲ加ヘルモノトス

第五條 會員ノ推選ハ先ヅ在京會員ニテ投票シ其ノ投票數多數ノ三名ヲ取ツテ再ヒ投票シ最多數ヲ得タル者

一人ヲ以テ當選者ト定ム但最多數ト雖投票數五點以下ナルトキハ之ヲ棄却シ更ニ改選ヲ爲ス

第六條 會員中右三名共ニ不適任ト認ムルカ若クハ其ノ學力人物等ヲ聞知セサルトキハ投票ヲ辭スル事ヲ得

第七條 投票ヲ辭シタル會員ノ數在京會員ノ三分ノ一以上ニ登ルトキハ選舉ヲ行ハス更ニ改選ヲ爲ス

第八條 當選者會員タルコトヲ辭スル者アルトキハ更ニ改選ヲ爲ス

第九條 議事ノ可否ヲ決スルハ多數ニ依ル但在京會員二分ノ一以上出席セサルトキハ可否ヲ決セス

第十條 會日ニハ講筵ヲ開キ公衆ノ參聽ヲ許スコトアルヘシ

第十一條 毎年一月ノ會日ニ於テ前會長前年ノ院務ノ要項ヲ報告ス

第十二條 會員ノ坐順變換ハ年二期(一月、七月)トシ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但新任者ハ該一期間末坐トス

第十三條 通常毎月(八、九兩月ヲ除ク)第二日曜日ヲ以テ會日ト定ム但事宜ニヨリ會日ヲ變更シ或ハ臨時會

ヲ開クコトアルヘシ

第十四條 演述ノ筆記並ニ院務ノ要項等ハ時々之ヲ刊行シテ會員ニ頒チ併セテ世ニ公ニス

(參照)東京學士會院會則

第四 帝國學士院長職務規程

- 第一條 院長ハ會員若クハ職員ニ年金若クハ手當給與ヲ必要ナリト認メタルトキハ其ノ旨文部大臣ニ具申スヘシ
- 第二條 院長ハ書記ノ進退ニ關シ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得
- 第三條 院長ハ文部大臣ノ許可ヲ經テ囑託員ヲ置クコトヲ得
- 第四條 左記事項ハ院長之ヲ專行スヘシ但シ第二號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ
- 第一 會員及職員ノ内國各地出張ニ關スルコト
- 第二 囑託員ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト
- 第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト
- 第四 經費中ノ目ヲ流用スルコト
- 第五 前各號ノ外輕易ナル事項
- 第五條 前條ニ掲ケタル事項ノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行ス

ヘシ

第五 帝國學士院授賞規則

明治四十三年十月十二日議決
 同大正五年三月十二日文部大臣議決
 同大正四年十一月十一日文部大臣議決
 同昭和二年六月十二日文部大臣議決
 同昭和二年七月九日文部大臣議決

- 第一條 帝國學士院ハ學術ノ研究ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ賞ヲ授ク
- 第二條 賞ハ特定ノ論文著書其ノ他特種ノ研究ニシテ其ノ成績卓絶ナルモノニ對シテ之ヲ授ク
- 第三條 賞ハ賞牌又ハ賞金トス但シ賞牌及賞金ハ併セテ之ヲ授クルコトヲ得
- 賞牌ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第四條 賞ハ帝國學士院會員ニ非サル者ニ之ヲ授ク
- 第五條 賞ヲ授クルハ推薦又ハ募集ニ依ル

第六條 帝國學士院會員授賞ノ推薦ヲ爲サムトスルトキハ毎年十月其ノ所屬ノ部會ニ其ノ提議ヲ爲スヘシ但シ十月部會ヲ開カサルトキハ遞次繰延フルコトヲ得

前項ノ提議ニハ當該部會員三人以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第七條 部會ニ於テ論文等ヲ審査ニ付スヘキモノト議決シタルトキハ審査委員ヲ定ムヘシ

部會ニ於テ必要ト認ムルトキハ他ノ部ニ屬スル會員ニ審査委員ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 審査委員ノ議決ハ多數決ニ依ル但シ審査委員ハ部會ニ於テ各其ノ意見ヲ述フルコトヲ妨ケス

第九條 審査委員ハ書面ヲ以テ審査ノ經過及結果ヲ部會ニ報告スヘシ

第十條 部會ニ於ケル擬賞ノ議決ニハ投票總數三分ノ二以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第十一條 前條ノ規定ニ依リ擬賞ノ議決アリタルトキハ部長ハ審査報告書其ノ他擬賞ニ關スル一切ノ事項ヲ總會ニ提出シ其ノ議決ヲ經ヘシ

第十二條 擬賞ノ議決ヲ爲スニハ部長又ハ院長ニ於テ少クトモ三週間以前會議ノ目的ヲ會員ニ通知スヘシ

第十三條 擬賞ノ議決ニ付テハ投票ハ總テ無記名トス
病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投票スルコトヲ得

第十四條 論文ヲ募集スル場合ニ於テハ其ノ都度部會ニ於テ募集ニ關スル事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經ヘシ

總會ノ議決アリタルトキハ帝國學士院募集ノ條件ヲ公示ス

第十五條 論文ノ募集了リタルトキハ部會ニ於テ審査委員ヲ定ムヘシ

第十六條 第七條第二項及第八條乃至第十三條ノ規定ハ論文募集ノ

場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 賞ヲ受ケタル者ハ受賞ノ目的タル論文又ハ著書ニ其ノ旨ヲ表示スルコトヲ得

第十八條 賞ヲ授クヘキ者授賞推薦ノ提議アリタル後又ハ論文ノ募集ニ應シタル後死亡シタル場合ニ於テハ帝國學士院ハ授賞ノ旨ヲ公示シ且其ノ者ニ授クヘキ賞ノ處分ヲ定ム

第六 帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ

關スル法律 (大正四年五月法律十三號)

帝國學士院ニ於テ學術研究獎勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國學士院長ニ交付シ經理ヲ委任スルコトヲ得委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ノ規定ニ依ル

附 則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國學士院學術獎勵金特別會計法ニ依リ帝國學士院長ニ經理ヲ委任セラレタル金額ノ支出殘額ハ本法ニ依リ經理ヲ委任セラレタルモノト看做ス

第七 貴族院帝國學士院會員議員互選規則

勅令第二百三十三號 (大正十四年六月十九日官報)

貴族院帝國學士院會員議員互選規則

第一條 貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル選舉ハ帝國學士院規程ニ定メタル各部ニ於テ各二人ヲ互選スルモノトス

第二條 貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ選舉ノ期日ノ三十日前ヨリ其ノ日迄引續キ帝國學士院會員タル者タルヘシ

第三條 選舉ニ關スル事項ハ内閣總理大臣之ヲ管理ス

第四條 選舉ハ九月二十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第五條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第六條 帝國學士院長ハ選舉管理者ト爲リ選舉ニ關スル事務ヲ擔任ス

第七條 帝國學士院長ハ選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發スヘシ

第八條 互選人ハ選舉會場ニ於テ選舉管理者ノ交付シタル投票用紙ニ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選舉人ノ氏名ヲ自ラ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第九條 互選人東京府ノ外ニ居住スルニ因リ又ハ公務若クハ疾病傷

疾ニ因リ選舉ノ當日選舉會場ニ到ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票ヲ爲スコトヲ得

第十條 前條ノ規定ニ依リ投票ヲ爲サムトスル者ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ十日前ニ選舉管理者ニ理由ヲ具ヘテ其ノ旨ノ届出ヲ爲スヘシ但シ正當ノ理由ニ因リ當該期間内ニ届出ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ選舉ノ期日ノ前日迄ニ届出ヲ爲スコトヲ得前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ選舉管理者ハ直ニ投票用紙及投票用封筒ヲ當該互選人ニ送付スヘシ

第十一條 前條ノ規定ニ依ル送付ヲ受ケタル互選人ハ投票用紙ニ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選舉人ノ氏名ヲ自ラ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ入レ封緘シ其ノ表面ニ署名捺印シ且投票在中ノ旨ヲ明記シ投票ノ時間ノ終了スル時迄ニ到達スル様書留郵便ヲ以テ選舉管理者ニ之ヲ送付スヘシ投票用紙及投票用封筒ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第十二條 選舉管理者ハ前三條ノ規定ニ依ル郵便投票ヲ受領シタルトキハ選舉會場ニ於テ投票ノ時間内ニ互選人ノ面前ニ於テ外部ノ封筒ヲ開披シテ投票用封筒ヲ投函スヘシ

第十三條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ帝國學士院長ハ選舉ノ期日、選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第十四條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢スヘシ此ノ場合ニ於テ投票用封筒ニ入レタル投票アルトキハ其ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シタル後點檢スヘシ

第十五條 投票ノ拒否及效力ハ選舉管理者之ヲ決定ス

第十六條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二 互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超過スル被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

五 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

六 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

七 貴族院帝國學士院會員議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規程ハ第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第一項第二號第六號又ハ第七號ニ該當スル投票ハ連記投票ノ場合ニ於テハ其ノ該當ノ部分ノミヲ無効トス

第十七條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ

選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ以テ總被選舉人ノ得票總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス
當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ選舉會場ニ於テ選舉管理者互選人ノ面前ニテ抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條 第十四條ノ規定ニ依ル點檢ノ結果ハ其ノ場ニ於テ之ヲ告知スヘシ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ尙直ニ當選ノ旨ヲ本人ニ告知スヘシ

第十九條 貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選舉ニ關ル爭訟ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選舉管理者之ヲ定ムヘシ
當選人當選ヲ辭シタルトキ死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタルトキハ選舉管理者ハ直ニ第十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ

定ムヘシ

第二項ノ場合ニ於テ選舉管理者ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

第二十條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選舉管理者ニ届出ツヘシ
當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十一條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ帝國學士院長ハ當選人ノ氏名ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 選舉管理者ハ選舉錄ヲ作り選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ署名シ且其ノ寫ヲ内閣總理大臣ニ送付スヘシ

當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ内閣總理大臣ハ選舉錄ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘシ

第二十三條 投票ハ有效無效ヲ區別シ郵便投票ニ用ヒタル封筒選舉

錄其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間帝國學士院ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第二十四條 當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ當選人ナキニ至リ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第十九條ノ規定ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ帝國學士院長ハ選舉ノ期日選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第二十五條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

第二十六條 前二條ノ選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第二十八條 貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以内トス但シ開院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以内ヲ以テ出訴ノ期限トス
前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尙次ノ會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

附 則

本令ハ貴族院令第五條ノ二ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參 照)

明治二十二年二月十日 布勅令第十一號貴族院令抄錄

第五條ノ二 滿三十歲以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及
投票函ノ様式ニ關スル閣令
帝國學士院學術研究獎勵金運用委員會規則

五〇

第八

貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票
用紙、投票用封筒及投票函ノ様式ニ關スル閣令

閣令第五號（大正十四年八月二十一日官報）

貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投
票函ノ様式ハ帝國學士院長之ヲ定メ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九

帝國學士院學術研究獎勵金運用
委員會規則（昭和三年一月十二日總會議決）

第一條 本院ニ學術研究獎勵金運用委員會ヲ置ク

運用委員會ハ院長ノ監督ニ屬シ學術研究獎勵金ノ運用ニ關スル事
項ヲ審議ス

第二條 運用委員會ハ委員長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長ハ本院幹事ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ本院會員中ヨリ院長之ヲ囑託ス

院長必要アリト認ムルトキハ文部省會計課長又ハ他ノ文部省高等
官ニ委員ヲ囑託スルコトヲ得

第三條 運用委員會ハ委員長隨時之ヲ招集ス

第四條 院長ハ學術研究獎勵金ノ運用方法ヲ運用委員會ニ諮問スヘ
シ

學術研究獎勵金ノ運用ハ左ノ方法ニ據ル

一 國債ノ應募又ハ買入

二 運用委員會ノ適當ト認ムル地方債、社債又ハ産業債券ノ應募又ハ買入

三 大藏省預金部ニ預入レ又ハ運用委員會ノ適當ト認ムル銀行若ハ信託會社ニ定期預金若ハ金錢信託ト爲
スコト

學術研究獎勵金ハ一時ノ必要アル場合ニ限り之ヲ運用委員會ノ適當ト認ムル銀行ニ特別當座預金ト爲
スコトヲ得

第五條 運用委員會ハ毎年度學術研究獎勵金運用報告書ヲ院長ニ提

出シ院長ハ之ヲ總會ニ報告スヘシ

第十 恩賜賞ニ關スル決議

(明治四十四年四月十二日總會決議)

- 一 皇室ノ御下賜金ヲ以テスル賞ハ之ヲ恩賜賞ト稱スルコト
- 二 恩賜賞ノ數ハ毎年第一部第二部各一個トシ場合ニ依リ二個ニ等分スルコトヲ得若シ其ノ年度内ニ授與シ了ラサルモノアルトキハ之ヲ遞次繰越シ授與スルモ差支ナキコト
- 三 恩賜賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授クルコト

第十一 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議

(明治四十四年十一月十二日總會決議 同十二年三月十二日總會修正議決
同四十五年五月十二日總會修正議決 同十二月十二日總會修正議決
大正八年四月十二日總會修正議決)

- 一 男爵三井八郎右衛門ヨリノ寄附金ヲ以テセル賞ハ第二部ニ於テ

毎年其ノ數ヲ一個トシ男爵岩崎久彌ヨリノ寄附金ヲ以テスル賞ハ第一部第二部各隔年ニ一個トス但シ場合ニ依リテハ部ニ於テ之ヲ分チ二個以上ノ賞トスルコトヲ妨ケス

大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ内ヲ以テセル賞ハ之ヲ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞ト稱シ其ノ數ハ各部ヲ通シテ毎年四個トス
受賞者ナキトキハ之ニ對スル賞金ハ遞次翌年度ニ繰越シ之ヲ授與スルコトヲ得

賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授ク

- 二 寄附ノ條件ニ依リ寄附金ヨリ生スル利殖金ヲ賞又ハ研究費補助トシテ使用スルコトヲ得ル場合ニ於テ之ヲ賞トスルトキハ其ノ數及ヒ所屬ハ總會ニ於テ之ヲ定ム
- 前項ノ賞ニシテ記念ノ趣旨ヲ表明スルコトヲ要スル場合ニハ之ヲ某記念賞ト稱シ賞金ニ賞記ヲ添ヘテ之ヲ授ク

三 二人以上共同ノ事業ニ對シテハ賞記ニ其ノ旨ヲ記シ各自ニ之ヲ授ク但シ賞金ハ分割セサルコトアルヘシ

第十二 條件附寄附金ニ關スル決議 (大正五年一月十二日總會決議)

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル寄附金ノ使途ニ關シテハ總會又ハ部會ハ必要ナル審査及決議ヲ爲スヘシ

第十三 藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議

(大正六年二月十二日總會決議 昭和五年六月總會修正決議)

- 一 男爵藤田平太郎寄附ノ獎勵費ハ其ノ指定セラレタル用途ノ範圍ニ於テ有望ナル研究者ニ之ヲ與フ
- 二 獎學費ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス

- 三 獎學費ヲ受クヘキ者ノ數ハ各部ニ於テ毎年之ヲ定ム
獎學費ハ一人一箇年金三百圓以內トス但シ更ニ其ノ支給ヲ繼續スルコトヲ得
- 四 獎學費ヲ受ケタル者ノ氏名ハ寄附者ニ之ヲ報告ス

第十四 末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ

使途ニ關スル決議 (大正七年七月十二日第一部々會議決 大正十年十一月十二日第一部々會議決)

一 子爵夫人末松生子寄附羅馬法獎學資金ハ其ノ利殖金ノ一部ヲ以テ羅馬法律書籍ヲ購入シ獎學品トシテ各官公私立大學中羅馬法ヲ教授セル各大學ノ大學院又ハ法科大學在學中ノ學生ニ與フルモノトス但シ適當ト認ムル他ノ學生ニ與フルコトアルヘシ
尙ホ場合ニ依リ相當ノ圖書館ヲ選定シ之ニ寄贈スルコトヲ得
利殖金ノ他ノ一部分ハ之ヲ積立テ羅馬法律書籍ノ出版費トシテ使

用スヘキモノトス

- 二 獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ選定ハ第一部長ノ詮考ニ依ル但シ詮考事項ハ之ヲ部會及總會ニ報告スヘシ獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ數並ニ出版費トシテ積立テ置クヘキ金額ハ相當ノ範圍ニ於テ毎年之ヲ定ム
- 三 獎學品ヲ受ケタル者ノ氏名及書籍ヲ寄贈シタル圖書館ノ名ハ之ヲ寄附者ニ報告スヘシ

第十五 松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議

(大正十一年四月十二日總會決議
大正十二年五月十二日總會修正決議)

- 一 松方公爵米壽祝賀會寄附ノ獎學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ元金ハ永ク保存シテ之ヲ利殖シ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ
- 二 獎學費ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル學科ノ研究費褒

賞費講義費學生費出版費等ニ充テ其ノ他本院ニ於テ適當ト認ムル事業費ニ之ヲ使用ス

- 三 獎學費使途ノ事項ニハ「松方記念」ノ稱ヲ冠ス
- 四 獎學費ノ使途並ニ其ノ受領者ノ選定ハ當該部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス
- 五 獎學費ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告ス

第十六 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議

(大正十二年十二月總會決議)

- 一 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ内ヲ以テセル學術研究資金ニハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念」ノ稱ヲ冠シ該資金使途ノ事項ニハ之ニ依リタル旨ヲ

大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議

表明スルコト

- 二 研究資金ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ議ヲ經テ總會ニ於テ之ヲ決定ス
- 三 研究資金ヲ受ケタル者ノ氏名及研究事項ハ毎年之ヲ大阪毎日新聞東京日日新聞兩社ニ報告ス

第十七 小池厚之助寄附獎學資金ノ使途ニ關スル決議

(大正十四年九月十九日臨時總會議決)

- 一 小池厚之助寄附獎學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ其ノ總額ヲ基金トシテ永久ニ保存利殖シ其ノ利子ヲ研究費補助ニ充ツ
- 二 基金ヨリ生スル利子ノ中毎年度金參千圓ヲ控除シ特別補助資金トシテ之ヲ積立利殖シ殘餘ノ利子ノ一半ハ醫學ノ研究費補助ニ充テ他ノ一半ハ一般研究費補助ニ充ツ
- 三 特別補助資金及其ノ利殖金ハ特別重要事項ノ研究ニシテ特ニ多

額ノ補助金ヲ要スルモノニ對シ十分ナル補助ヲ爲サムトスルトキニ限り之ヲ使用ス

- 四 研究費補助ヲ受クヘキ者ノ選定ハ本院總會ノ學術研究費補助ニ關スル決議ニ依リ之ヲ爲ス
- 五 研究費補助ヲ受ケタル者ノ氏名ハ其ノ研究事項ト共ニ毎年之ヲ小池家ニ報告ス

第十八 メンデンホール寄附獎學資金ノ

使途ニ關スル決議 (昭和五年四月總會議決)

- 一 米國人故トーマス・メンデンホールノ遺言ニ依リ本邦理學及教育ノ明治初年ニ於ケル發達ト故人トノ關係ヲ記念センカ爲ニ寄附セル獎學資金ノ元金ハ永久ニ保存シテ之ヲ利殖シ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ

- 二 獎學費ハ大正十四年以降五箇年毎ニ其ノ期間ニ於テ物理學又ハ天文學上顯著ナル貢獻ヲナシタル日本人ヲ褒賞スルカ爲ニ使用ス賞ハ金牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授ク
- 三 前記期間ニ於テ賞ノ適當ナル目的物ナキトキニ限リ利殖金ハ之ヲ物理學又ハ天文學上ノ學術研究費補助、講演、出版等ノ費用ニ充ツルコトヲ得
- 此ノ場合ニ於ケル獎學費ノ使途ハ第二部々會ノ決議ニ依ル、部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス
- 四 獎學費使途ノ事項ニハ「メンデンホール記念」ノ稱ヲ冠ス

第十九 學術研究費補助ニ關スル決議

明治四十年七月十二日 總會決議
 大正八年三月十二日 總會修正決議
 大正十二年三月十二日 總會修正決議
 大正十五年一月十二日 總會修正決議
 昭和二年六月十二日 總會修正決議

- 一 會員ニシテ學術研究費ノ補助ヲ要スルコトアルトキハ研究ノ目的ヲ明記シ之ニ要スル概算費目ヲ十二月末日マテニ部長ニ申出ツヘシ
- 會員ニ非サル者ニ對スル學術研究費ノ補助ハ會員又ハ官公私立大學ノ總長若クハ學長ノ推薦ニ依ル
- 前項ノ推薦ハ院長ニ宛テ毎年十二月末日迄ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 二 決議一ノ申出及推薦ハ研究事項ノ屬スル部ニ於テ之ヲ審査スル爲毎年一月ノ部會ニ於テ部長其ノ部ニ屬スル審査委員若干名ヲ指名ス（二月部會ヲ開カサルモ部長ハ審査委員ヲ指名ス）
- 部長ハ審査委員會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル審査委員會ノ決議ハ一月末日マテニ部長之ヲ院長ニ報告スヘシ
- 三 學術研究費補助案ハ部長ノ報告ニ基キ役員會議ニ於テ之ヲ定メ二月ノ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テ

- ハ 院長ハ決議一及二ノ手續ニ依ラス部長ノ申請ニ因リ役員會議ニ於テ決定シ次回ノ總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ
- 四 學術研究費ノ補助ヲ受ケタル者ハ研究結了後直ニ其ノ成績ヲ報告スヘシ
- 研究數年ニ涉ル場合ニ於テハ毎年十二月末日マテニ研究進行ノ狀況ヲ記載セル報告書ヲ部長ニ提出スヘシ
- 五 補助ヲ受ケタル研究ノ成績報告書ニハ本院ヨリ研究費ノ補助ヲ受ケタル旨ヲ明記スルコトヲ要ス

第二十 高松宮家へ推薦スヘキ有栖川宮記念學術

獎勵資金受領候補者選定ニ關スル決議

(昭和三年一月十二日總會議決)

本院ヨリ高松宮家ニ推薦スヘキ有栖川宮記念學術研究獎勵資金受領

候補者ノ選定ニ關シテハ授賞ノ場合ニハ本院授賞規則ヲ學術研究費補助ノ場合ニハ本院學術研究費補助ニ關スル決議ヲ準用ス但シ授賞事項又ハ研究費補助事項ノ提出時期ハ左ノ通りトス

- 一 授賞事項ノ提出期ハ毎年二月又ハ時宜ニ依リ三月トス
- 二 學術研究費補助事項ノ提出期ハ本院會員ヨリスルモノハ毎年四月末日及十月末日迄ノ二回トシ官公私立大學總長又ハ學長ヨリスルモノハ毎年十月末日迄トス

第二十一 學術研究費補助推薦ニ關スル決議

(大正五年一月二十五日總會議決)

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル事業ニ關シ推薦ノ依頼ヲ承諾シタルトキハ總會又ハ部會ハ委員ヲ選出シ必要ナル審査ヲ要サシメ其ノ結果ニ依リ決議ヲ爲スヘシ

第二十二 出版ニ關スル決議

明治四十年七月十二日 總會決議
同 明治四十四年十一月十二日 總會修正議決

- 一 毎年一回年報ヲ刊行シテ報告ヲ登載スヘシ
- 二 帝國學士院規程第七條、第八條及帝國學士院會則第十一條第二項第十二條ニ依ル論文報告講演等ハ帝國學士院紀事又ハ別冊トシテ刊行スルコトヲ得
- 三 圖書又ハ論文ヲ編纂校訂翻譯若クハ謄寫セシメ又ハ之ヲ出版スルコトヲ得
- 四 第二項ニ掲ケタル論文報告及講演ヲ帝國學士院紀事又ハ別冊以外ニ掲載セントスルトキハ院長ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス

第二十三 帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議

明治四十年十二月十二日 總會決議
同 明治四十四年七月十二日 總會修正議決

- 一 帝國學士院紀事ハ集會ノ錄事及會員ノ提出セル論文報告書等ヲ登載ス
- 二 長編ノ論文報告書等ハ別冊トシテ臨時刊行シ其ノ概要ヲ紀事ニ登載ス
- 三 會員ニ非サル者ノ論文報告書等ニシテ會員ノ紹介ニ依リ提出セラレタルトキハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ掲クルコトアルヘシ
- 四 既ニ他ニ出版セル論文報告書等ハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ登載セス但シ其ノ概要ヲ抄録スルハ此限ニアラス
- 五 出版委員若干名ヲ置キ出版ニ關スル事務ヲ委任ス
出版委員ハ論文報告書等ノ取捨節略ニ關シ疑アルトキハ之ヲ總會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得
- 六 出版委員ハ部ニ於テ之ヲ選出シ幹事ヲ以テ委員長トス
部選出委員ノ數ハ各部之ヲ定メ其ノ任期ヲ三箇年トス

第二十四 學術研究獎勵金

一 御下賜金

皇室御下賜金ノ一

皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ明治四十三年以降十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレ引續キ昭和五年以降十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ賞典費ニ充ツ

皇室御下賜金ノ二

皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ大正九年一月以降年々金壹萬圓ヲ下賜セラレ更ニ昭和七年一月金壹萬圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ學術研究ノ資ニ充ツ

二 寄附金

(一) 男爵三井八郎右衛門寄附金

男爵三井八郎右衛門ヨリ明治四十四年以降十箇年間毎年金壹千圓

宛合計金壹萬圓、大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓、更ニ三井合名會社々長ヨリ昭和六年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ第二部ニ屬スル賞典費ニ充ツ

(二) 三菱合資會社寄附金

三菱合資會社々長男爵岩崎久彌ヨリ明治四十四年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓、同會社々長男爵岩崎小彌太ヨリ大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓、更ニ三菱合資會社ヨリ昭和六年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ賞典費ニ充ツ

(三) 工學博士藥學博士高峰讓吉寄附金

大正元年工學博士藥學博士高峰讓吉ヨリ金五千圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ元金ハ之ヲ保存シ之ヨリ生スル利殖金ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(四) 男爵住友吉左衛門寄附金

男爵住友吉左衛門ヨリ大正元年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ更ニ大正十一年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓、更ニ昭和七年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(五) 男爵古河虎之助寄附金

男爵古河虎之助ヨリ大正二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓、更ニ大正十二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(六) 男爵藤田平太郎寄附金

大正四年男爵藤田平太郎ヨリ金貳萬貳千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件ニヨリ金貳千圓ヲ羅馬法學書出版費補助トシテ之ヲ使

用シ金壹萬圓ヲ羅馬法學獎學資金トシ金壹萬圓ヲ採鑛冶金學及關係學科獎學資金トシ各獎學資金ヨリ生スル利殖金ヲ東京帝國大學及京都帝國大學ノ大學院又ハ分科大學在學中ノ學生ノ獎學費ニ充ツ

(七) 三井合名會社寄附金

大正五年三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ左ノ出版費トシテ金參千圓ヲ寄附セルモノナリ

金壹千圓 大日本數學史ノ増補出版費

金貳千圓 伊能忠敬測地事蹟調查事項出版費

(八) 山下龜三郎寄附金ノ一

山下龜三郎ヨリ大正五年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ船舶航海其他之ニ關スル學術研究ノ資ニ充ツ

但シ右金額ノ納付方法ハ使途ノ狀況ニ於テ隨時之ヲ變更スルコト

ヲ得

(九) 山下龜三郎寄附金ノ二

山下龜三郎ヨリ大正十二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ國際關係ノ學事費ニ之ヲ使用ス

(一〇) 故桂公爵記念事業會寄附金

大正六年故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一ヨリ學術研究獎勵ノ爲金貳萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

元金ハ桂學術獎勵基金トシテ保存シ之ヨリ生スル利殖金ノ全部又ハ一部ヲ

- 一 學術研究ニ依リ社會ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタリト認メラル者ニ賞トシテ與フルカ又ハ
- 二 學術研究費補助トシテ之ヲ使用シ
- 三 孰レモ桂學術獎勵基金ニ據リタルコトヲ表明スルコト但シ場合ニ依リ(一)若クハ(二)ヲ選行シ又ハ二者ヲ併行スルハ帝國學士院ノ任意タルヘキコト

(一一) 子爵夫人末松生子寄附金

大正七年子爵夫人末松生子ヨリ羅馬法獎勵資金トシテ有價證券額面金五千百圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

資金ノ利殖金ヲ以テ毎年若干宛羅馬法律書ヲ購入シ適宜ノ方法ニ依リ可然學生ニ之ヲ分與シ又ハ場合ニ依リ相當ノ圖書館ヲ選定シテ之ニ寄贈スヘキコト尙ホ必要ノ場合ニハ右法律書ノ印刷費ニ充ツルコト

(一二) 松方公爵米壽祝賀會寄附金

大正十一年松方公爵米壽祝賀會發起人總代男爵阪谷芳郎平山成信ヨリ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金トシテ金拾八萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 本資金ハ適當ノ方法ヲ以テ利殖スルコト
- 二 元金ハ永ク之ヲ保存シ其ノ利子ノミヲ使用スルコト
- 三 利子ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル研究ノ補助褒賞等ニ使用スルコト
- 四 前項以外タリト雖モ帝國學士院ニ於テ相當ト認ムル事業ニ利子ヲ使用スルハ妨ケナキコト
- 五 利子ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告スルコト

同 追加寄附金ノ一

大正十二年四月松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信ヨリ金五千四百五拾四圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ヨリ生スル利子ニ加ヘ獎學ノ目的ニ使用ス

同 追加寄附金ノ二

大正十二年五月松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎ヨリ金五百六拾圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ中へ加へ使用ス

(一三) 財團法人原田積善會寄附金

財團法人原田積善會理事原田二郎ヨリ大正十二年以降壹百萬年間毎年金壹萬圓(四月及九月ノ兩月ニ分納)ツ、合計金壹百萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 金壹萬圓ノ内金二千圓ハ之ヲ原田二郎獎學基金トシテ積立テ適當ノ方法ヲ以テ永遠ニ利殖スルコト但シ五十年後ニアリテハ右基金ヨリ生スル利子ヲ帝國學士院ニ於テ適宜使用スルモ妨ケナキコト
- 二 金壹萬圓ノ内金八千圓ハ毎年獎學ノ爲使用スルコトトシ其方法ハ總テ帝國學士院ニ一任スルコト
- 三 本寄附金ニヨリ施行シタル事項ハ毎年之ヲ原田積善會へ報告スルコト

(一四) 高峰保全株式會社寄附金

高峰保全株式會社取締役鹽原又策ヨリ賞又ハ研究資ノ基金トシテ大正十二年以降五箇年間毎年金五千圓(一月及七月ノ二期ニ分納)ツ

ツ合計金貳萬五千圓ヲ寄附セルモノニシテ其ノ利殖金ヲ學術研究ノ賞又ハ資トシテ使用ス

(一五) 三共株式會社寄附金

三共株式會社取締役鹽原又策ヨリ前記高峰保全株式會社寄附ニ係ル基金ノ利子ヲ大正十三年ヨリ金壹千圓ツ、使用シ得ル爲其ノ不足補充ノ目的ヲ以テ大正十二年ヨリ三箇年ニ涉リ金貳千圓ヲ寄附セルモノナリ

(一六) 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附金

大阪毎日新聞社長本山彦一ヨリ東宮御成婚記念學術獎勵資金トシテ大正十三年以降十箇年間毎年金壹萬圓ツ、合計金拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 毎年金壹萬圓ノ中金四千圓ハ賞金トシ金六千圓ハ研究資金トシテ之ヲ使用セラレタキコト
- 二 賞ハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞」ト稱シ賞牌及賞記ト共ニ金壹千圓宛四人ニ之ヲ授與セラレタキコト 但シ賞牌ノ制式ハ貴院ニ一任スルコトトシ其ノ作製ニ要スル費用ハ別ニ本社ヨリ之ヲ貴院ニ納付ス

三 受賞者ナキトキハ賞金ノ一部又ハ全部ヲ遞時翌年ニ繰越シテ使用セラル、モ妨ケナキコト
 四 研究資金ノ使用方法ハ之ヲ貴院ニ一任スルモ該資金使途ノ事項ニハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念」ノ稱ヲ冠セラレタキコト

(一七) メンデンホール寄附金

米國人元東京大學教師故トーマス・メンデンホールノ遺言ニ因リ同人息チャールス・メンデンホールヨリ大正十四年米貨二千五百弗ヲ寄附セルモノニシテ物理學又ハ天文學ニ關スル獎學費ニ充ツ

(一八) 小池厚之助寄附金

故小池國三ノ遺志ニ依リ同人息小池厚之助ヨリ大正十四年五月金參拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 寄附金總額ハ之ヲ基金トシテ永久ニ保存シ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ利殖スルコト
- 二 右基金ヨリ生スル利子ハ貴院ノ選定ニ依ル學術研究ノ補助資金ニ充ツルコト
- 三 右基金ヨリ生スル利子ノ中ヨリ毎年金參千圓ヲ控除シ其ノ殘額ノ一半ハ醫學ノ研究補助費ニ充テ他ノ半額ハ一般研究ノ補助費ニ充ツヘキコト
- 四 上記控除セル金參千圓ハ特別補助資金トシテ毎年之ヲ積立テ利殖シ特ニ多額ノ資金ヲ投スルニアラサレハ研究ヲナシ得サルカ如キ特別重要ナル事項ノ出現ヲ俟テ之ニ十分ナル補助ヲ與フル事

同 追加寄附金

小池厚之助ヨリ大正十五年三月金壹萬四千七百貳拾圓餘ヲ寄附セルモノニシテ學術研究ノ補助費ニ充ツ

(一九) 男爵岡野節寄附金

男爵岡野節ヨリ大正十五年二月金五千圓ヲ寄附セルモノニシテ右基金ハ之ヲ永久ニ保存シ之ヨリ生スル利子ヲ學術研究ノ補助費ニ充ツ

同 追加寄附金

男爵岡野節ヨリ大正十五年三月金參拾貳圓餘ヲ寄附セルモノニシテ學術研究ノ補助費ニ充ツ

(二〇) 小津清左衛門寄附金

小津清左衛門ヨリ學術獎勵金トシテ大正十五年九月金五千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件ニ依リ「南朝の柱石北畠親房及びその子孫の事蹟」ノ研究費ニ充ツ

(一一) 中澤つる寄附金

故中澤房則ノ遺志ニ依リ中澤つるヨリ學術獎勵金トシテ昭和二年十月有價證券額面金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ元金ハ之ヲ保存シ之ヨリ生スル利子ヲ一般學術研究費ノ補助ニ充ツ

(一二) 古籀篇刊行會記念獎學資金

古籀篇刊行會理事長子爵渡邊千冬ヨリ昭和三年七月金貳萬九千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 寄附セントスル所ノ金員ハ古籀篇刊行會記念獎學資金ト稱スルコト
- 二 古籀篇刊行會記念獎學資金ハ、金參萬圓ニ達スルヲ俟テ、其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツルコト、隨テ願書所載ノ金員ハ、金參萬圓ニ達スルマテノ間、貴院ニ於テ据置利殖ノ途ヲ講セラレタルコト
- 三 前記獎學費ハ、漢學ニ關スル研究、若クハ著作出版ノ補助ニ使用セラレタキコト

同 追加寄附金

元古籀篇刊行會理事服部宇之吉ヨリ昭和四年五月金七百貳拾五圓ヲ寄附セルモノニシテ前項寄附金ニ加ヘ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ

(一三) 三井信託株式會社名義寄附金

三井信託株式會社ニ於テ某篤志家ノ供託ヲ受ケ同社取締役社長米山梅吉名義ヲ以テ昭和六年六月及同十二月ノ二回ニ互リ金五千圓ヲ寄附シ更ニ昭和七年四月金貳千五百圓ヲ寄附セルモノニシテ學術ノ研究及發表ノ助成費ニ充ツ

(一四) 鈴木三郎助寄附金

故鈴木三郎助ノ遺志ニ依リ同人息鈴木三郎助ヨリ昭和七年三月學術研究獎勵金トシテ有價證券額面金參拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 本資金ハ基金トシテ永ク之ヲ保存シ其利子ノミヲ使用スルコト
- 一 本基金ヨリ生スル利子ノ一半ハ(一)東京帝國大學理學部化學教室ニ屬スル學者ノ研究補助費ニ充テ他ノ一半ハ(二)他ノ化學者ノ研究補助費ニ充ツルコト
- 一 前項(一)ニ割當タル利子ニシテ當該年度内ニ全額使用シ得サリシ場合ニハ其ノ剩餘金ヲ(二)ノ補助費ニ流用シ又利子全額ノ上ニ剩餘ヲ生シタル場合ニハ之ヲ次年度ニ繰越シテ使用スルヲ妨ケサルコト

第二十五 出版物

- 假名遣沿革史料 明治四十二年三月發行
- 帝國學士院紀事(英文) 第一卷第一號 明治四十五年三月發行
- 帝國學士院紀事(英文) 第一卷第二號 大正二年三月發行
- 帝國學士院第一部論文集(邦文) 第一號 大正二年六月發行
菊池大麓論文 間重新ノ格圓起源ニ就テ
- 帝國學士院紀事(英文) 第一卷第三號 大正二年十一月發行
穗積陳重著 由井正雪事件ト徳川幕府ノ養子法
- 帝國學士院第二部メモアル(英文) 第一卷第一號 大正二年十一月發行
長岡半太郎及高嶺俊夫論文 階段格子及「ルムメン」板ヲ用ヒテ調査シタル水銀線ノ構造
- ユ帝欽定羅馬法學提要(末松謙澄翻譯) 第一卷第四號 大正二年十二月發行
竹内端三論文 代數的「キヨルベル」ニ於ケル「コンアルエント」數ノ「クラス」ニ就キ
- 「ウルピアース」羅馬法範(末松謙澄翻譯) 大正四年三月發行
同十三年七月三版發行

- 「ガリーウス」羅馬法解説(末松謙澄翻譯) 大正四年三月發行
同十三年七月三版發行
- 伊能忠敬(長岡半太郎監修大谷亮吉編著) 大正六年三月發行
- 和算ノ方陣問題(菊池大麓監修三上義夫編著) 大正六年三月發行
- 諸外國學士院ノ組織及授賞制(藤澤利喜太郎編) 明治四十三年八月印刷
大正七年一月再版發行
- 増修日本數學史(遠藤利貞遺著) 大正七年九月發行
- 帝國學士院紀事(英文) 第一卷第五號 大正七年十月發行
藤澤利喜太郎論文 代數的平均ニ就テ 大谷亮吉編著
- 帝國學士院第一部論文集(邦文) 第二號 大正八年二月發行
穗積陳重著 諱ニ關スル疑
- 帝國學士院紀事(歐文) 自第二卷第一號 大正十、昭和二年發行
- 帝國學士院紀事(歐文) 自第三卷第一號 昭和二、三年發行
- 帝國學士院紀事(歐文) 自第四卷第一號 昭和三、四年發行
- 帝國學士院紀事(歐文) 自第五卷第一號 昭和四、五年發行
- 帝國學士院紀事(歐文) 自第六卷第一號 昭和五、六年發行

○帝國學士院紀事第六卷別冊(歐文)

昭和五年發行

姊崎正治著 A Concordance to the History of Kirishitan Missions.

(Catholic Missions in Japan in the Sixteenth and Seventeenth Centuries.)

○帝國學士院紀事(歐文)

自第七卷第一號 昭和六、七年發行

○帝國學士院紀事(歐文)

自第八卷第一號 昭和七年發行

至同 第四號

第二十六 學術報告 (自明治四十年四月略之)

提出年月 昭和六年四月

提出者又ハ講演者

- 一 卵性魚目高に於ける體內受授並に發育に關する意見 (石川會員紹介) 雨宮 三育 郎作
- 一 整函數の導函數の零點分布に就て (藤原會員紹介) 竹中 曉
- 一 新輕合金クルミンに就て (依會員紹介) 飯高 一 郎
- 一 嶋弧の曲率と緯度との關係 寺田 寅 彦
- 一 地震被害家屋分佈の異常に就て 寺田 寅 彦

一 地塊運動に就て

(寺田會員紹介)

宮部 直 己

一 臺灣産エクテイナスキチアの一新種に就て

會員 丘 淺次郎

一 本邦上部白堊紀層産アンモナイトのアブチカス

長尾 巧

一 南西日本外帯佐川盆地の地層々序及地質構造

(以上二件 矢部會員紹介)

小林 貞 一

一 伊東地震地方に於ける水準測量の結果に就て

坪井 忠 二

一 三鷹村に於ける基線菱形の面積變化に就て(續報)

坪井 忠 二

一 伊豆半島西海岸の水準測量によりて見出されたる地塊運動

(以上三件 寺田會員紹介)

坪井 忠 二

一 水銀本線の超複雑なる構造

(高木會員紹介)

會員 長岡 半太郎

一 直流と交流とにより發光せしめたるネオン線の自己反轉の相違

(高木會員紹介)

會員 三島 忠雄

一 可解群の單項表現に就て

(高木會員紹介)

會員 竹田 清

昭和六年五月

一 西曆千九百三十年に於ける北半球共同緯度觀測事業假結果

(岡田會員紹介)

會員 木村 榮

一 日本の湖水に於ける水素イオン濃度の研究

(岡田會員紹介)

會員 吉村 信吉

一 太陽黑點とカルシウムフロキユリ並に太陽輻射の關係に就て

(平山(信)會員紹介)

會員 早乙女 清房

- 一 日本産燕雀目亞種相互間の變異及關係
 - 一 甲狀腺及腦下垂體前葉飼育が蠶の第二代に及ぼす影響
 - 一 兩棲類染色體の研究第三、有尾類の染色體豫報
(キモリゴハンザキ)
 - 一 コレラヤボニカの北方變種に就て
 - 一 直流並に交流にて發生せるネオン線自己反轉の差
 - 一 雲狀物質内の恒星の運動
 - 一 腸液分泌に關する實驗的研究(第二回報告) インスリニ
アアドレナリンの腸液分泌に及ぼす影響並に其の機轉に
就て
 - 一 可解一次變換群に就て
- (以上三件 石川會員紹介)
- 一 群生海鞘類の一新屬ミクソボトルスに就て
 - 一 割れ目と電子のアナロザイ
 - 一 電氣火花の構造、第二報
 - 一 大豆レチニンに就て・第三報・β系レチニンの分離
- (高木會員紹介)
- 一 脂油の光學的活性に就て
 - 一 グリセリドの分離・第十九報・摘要論議
 - 一 アミロシンテヤーゼに就て
- (以上四件 鈴木會員紹介)
- 一 一般フインスレル集合體に於ける接續論
 - 一 丹後地震地方第五回水準測量の結果に就て
- (吉江會員紹介)
(寺田會員紹介)
- 昭和六年六月
- 一 大正十五年八月三日羽田強震當時並に其の以前に現は
れたる地形變動に就て
 - 一 週期光星の説明
 - 一 マンゴスチンの化學的構造に就て
 - 一 カホチヤの黄色色素に就て
 - 一 稀有なる群生海鞘類ヒブルゴンの一新種に就て
 - 一 南滿洲關東州に於ける中生代及び第三紀の地殼運動に就て
(小川會員紹介)
 - 一 關東地震後に於ける房總半島の地殼運動
 - 一 不飽和脂肪酸及び其の誘導體、第三報・チキオシ一及
びゲアプロモ、ステアリン酸の四個の立體異性體
- (寺田會員紹介)

寺尾新 寺尾新 寺尾新 寺尾新 寺尾新
入來重盛 若森直喜 若森直喜 若森直喜 若森直喜
丘淺次郎 長岡半太郎 三島忠雄 平山清次 松原正香
竹田清 小寺田寅彦 寺田寅彦 寺田寅彦 寺田寅彦
小寺田寅彦 寺田寅彦 寺田寅彦 寺田寅彦 寺田寅彦

- 一 大正十五年八月三日羽田強震當時並に其の以前に現は
れたる地形變動に就て
 - 一 週期光星の説明
 - 一 マンゴスチンの化學的構造に就て
 - 一 カホチヤの黄色色素に就て
 - 一 稀有なる群生海鞘類ヒブルゴンの一新種に就て
 - 一 南滿洲關東州に於ける中生代及び第三紀の地殼運動に就て
(小川會員紹介)
 - 一 關東地震後に於ける房總半島の地殼運動
 - 一 不飽和脂肪酸及び其の誘導體、第三報・チキオシ一及
びゲアプロモ、ステアリン酸の四個の立體異性體
- (寺田會員紹介)

鈴木吉文 羽田龍馬 鈴木吉文 羽田龍馬 鈴木吉文 羽田龍馬
鈴木吉文 羽田龍馬 鈴木吉文 羽田龍馬 鈴木吉文 羽田龍馬
今村明恒 平山清次 村上増雄 杉野目晴貞 丘淺次郎
松部下進 宮部直巳 鈴木吉文 鈴木吉文 鈴木吉文

- 一 不飽和脂肪酸及び其の誘導體、第四報・ゲタクロールス
テアリン酸よりステアロール酸を生ずる機作
(以上二件 鈴木會員紹介)
- 一 永年方程式に關する一定理の幾何學的證明
或る方列の特有方程式の根に就て
(以上二件 藤原會員紹介)
- 一 グルコシルフアターゼに就て
(朝比奈會員紹介)
- 一 北海道天鹽國産エザライト輝石藍閃石英片岩に就て
(矢部會員紹介)
- 昭和六年十月
 - 一 聯立常微分方程式の積分曲線の集合に就て(第三報)
(吉江會員紹介)
 - 一 I.H. の帶狀スベクトルに於ける同位効果
(中村會員紹介)
 - 一 玄米貯藏の研究、溫度米の含水量並に乾燥劑使用が
米の發芽力に及ぼす影響
(吉川會員紹介)
 - 一 切支丹文學中の殉教文篇
アラシユケの定理解析的證明
セミスコレツクス屬(蛭類)の一新種の形態學的研究
(寺田會員紹介)
 - 一 白倭星の元素分布及其の荷電
(平山(信)會員紹介)
 - 一 星群に就て

丸山 鈴木 文助

伊藤 藤正 治

高橋 進 一

左右 田親 德宏 郎

服部 親 德宏 郎

鈴木 木 醇

近藤 萬太 郎

岡崎 正 治

藤崎 松三 郎

鈴木 清太 郎

鈴木 政 岐

寺田 寅 彦

寺田 寅 彦

寺田 寅 彦

寺田 寅 彦

寺田 寅 彦

寺田 寅 彦

寺田 寅 彦

寺田 寅 彦

寺田 寅 彦

昭和六年十一月

- 一 シヤウキラン屬の一新種黃花シヤウキラン
(三好會員紹介) 會員 中前川井 文猛之進
- 一 關東の西北境界に於ける地殼運動の北進に就て(講演) 會員 今村 明恒
- 一 地震と雷雨との關係 會員 寺田 寅彦
- 一 油脂類に對する火山灰の作用 會員 寺田 寅彦
- 一 深川に於ける天然瓦斯井 (寺田會員紹介)
- 一 Lebesgue の測度の擴張 (藤原會員紹介)
- 一 蠶兒の脱皮液中にある結晶體の起源に就きて
- 一 三岐渦蟲の一新種 (以上二件 佐々木會員紹介)
- 一 セルロース分解菌の一新種 (鈴木會員紹介)
- 一 新アコニツム屬アルカロイドに就て 會員 板野 新千代
- 一 鑄造金屬の破面に就て
- 一 酸化チタニウムと窒素との反應に依るチタニウムの生成 (以上二件 俵會員紹介)

寺田 寅彦

寺田 寅彦

寺田 寅彦

寺田 寅彦

寺田 寅彦

寺田 寅彦

寺田 寅彦

寺田 寅彦

寺田 寅彦

寺田 寅彦

- 一 或る種の代数體のZ函數の整除性について (高木會員紹介)
- 一 日本産造礁珊瑚

昭和六年十二月

- 一 一家雞に於ける實驗的中间性的豫報(皮膚及生殖腺の移植實驗) (石川會員紹介)
- 一 不飽和脂肪酸及び其誘導體(第五報)リノレン酸の構造
- 一 不飽和脂肪酸及び其誘導體(第六報)油酸及びエライヂン酸より得らるるデプロローム及びチオキンスデアリン酸の立體構造 (以上二件 鈴木會員紹介)
- 一 極東産ホイットマニア屬の調査
- 一 千島バラムシル及びシムシルよりのサラマンドレラ、カイセルリンギ (丘會員紹介)
- 一 平面網を通して落下する液滴の廻折に就て
- 一 地震計記録に依り地殻の移動量を決定する方法に就て (以上二件 寺田會員紹介)
- 一 蛋白質の分解物を以て動物を飼育せる實驗
- 一 アミノ酸の物理化學的研究・第五報 (以上二件 鈴木會員紹介)

會員

荒又 秀雄 矢部長克 杉山敏郎 増井清 鈴井吉之助 鈴丸文助 犬飼哲一 岡田彌太郎 池田芳彦 米田勝二 前田司郎 柳沼得三 早川堅太郎

一 イネの單數植物豫報

(池野會員紹介)

福盛 島永 榮俊太郎

昭和七年一月

- 一 シユレーゲル・アオガエルの染色體に就て
- 一 アオガエルミカラフトヒキガエルの染色體に就て (以上二件 石川會員紹介 丘會員代讀)
- 一 結氷せる湖水のセーシユミ水板の運動 (中村會員紹介)
- 一 サボニンに就て (真島會員紹介)
- 一 三鷹村菱形基線の變形と關東地方に於ける地震の頻度との關係
- 一 沿面放電に因る龜裂に就いて
- 一 中央日本の洪積世水河作用に就いて(講演)

會員

寺田實彦 寺田實彦 寺田實彦 寺田實彦 寺田實彦 寺田實彦 寺田實彦 寺田實彦 寺田實彦 寺田實彦

昭和七年二月

- 一 カワハギに寄生する吸蟲類の一種
- 一 有尾兩生類の頸動脈の試験 (以上二件 石川會員紹介)
- 一 紡錘蟲科有孔蟲の一新分類法

會員

尾崎佳正 市川純彦 半矢長四郎

- 一 震原に於ける地震波成生機巧に就て
 - 一 線條放電に對する磁場の影響
 - 一 プラコアラの新種プラコアラヤボニカに就て
 - 一 アサガホに於ける色の發達の遺傳的生理研究の記
 - 一 微分方程式 $\frac{dy}{dx} = f(x,y)$ の解の收斂半徑に就て
 - 一 一切支丹傳道に伴ふ新知識の追求 (講演)
- 昭和七年三月
- 一 或る星霧線の發生
 - 一 日本の深い湖水の夏季の水溫に就て
 - 一 日本の湖水に於ける窒素化合物及磷酸に就て
 - 一 砂に被はれたるボトソルス類プサンエボトルス、プルプレウスに就て
 - 一 超越整函數の展開に就て
 - 一 地震と魚獲
 - 一 富士山の高さの測定(三角水準測量法による)
- (以上二件 寺田會員紹介)
- (以上二件 岡田會員紹介)
- (以上二件 藤原會員紹介)
- (以上二件 高木會員紹介)
- (以上二件 佐々木會員紹介)
- (以上二件 高木會員紹介)

石本 巳四雄
伊藤 藤彦

丘 淺次郎

萩原 時雄
中村 秀五郎

姉崎 正治

會長 長岡 哲五郎

吉村 新吉

會員 丘 淺次郎

會員 竹中 曉

會員 寺田 寅彦
高橋 龍太郎

- 一 西曆千九百三十一年に於ける北半球共同緯度觀測事業の假結果
 - 一 北半球共同觀測所、ワシントン及クリニッチに於けるZ項の解折に就て
 - 一 二化螟蟲寄生の一新絲片蟲とその生活及習性
 - 一 蠶兒の皮膚に於ける乳嘴突起の分布密度
 - 一 フェルマーの假想定理について (第七)
 - 一 同 (第八)
- (以上二件 佐々木會員紹介)
- (以上二件 高木會員紹介)

會員 木村 榮

會員 桑名 壽一

森島 太郎

第二十七 授賞事項及受賞者 (×印ハ死亡)

明治四十四年七月五日

恩賜賞 第一號 地軸變動の研究特にZ項の發見 理學博士 木村 榮

明治四十五年五月十二日

同 第二號

佛文日清戰役國際法論及佛文日露陸戰國際法論 文學博士 ×有賀 長雄

授賞事項及受賞者

同 第三號 日本醫學史 富士川 游
 同 第四號 公孫樹の精蟲の發見 ×平瀬 作五郎
 同 第五號 蘇鐵の精蟲の發見 池野 成一郎
 帝國學士院賞 第一號 アドレナリンの發見 工學博士 ×高峰 讓吉
 藥學博士

大正二年七月五日

恩賜賞 第六號 續日本後紀纂訪 ×村岡 良弼
 同 第七號 腦神經起首の研究 醫學博士 上坂 熊勝
 帝國學士院賞 第二號 外部寄生性吸蟲類の研究 理學博士 五島 清太郎
 同 第三號 軍艦の設計殊に巡洋戰艦の設計 ×近藤 基樹

大正三年七月五日

恩賜賞 第八號 醫學博士 田原 淳
 哺乳動物の心臟に於ける刺戟傳導筋系統の研究 ×竹添 進一郎
 帝國學士院賞 第四號 左氏會箋 理學博士 ×日下部 四郎太
 同 第五號 力學研究

大正四年七月五日

恩賜賞 第九號 スピロヘータバリーダの研究 醫學博士 ×野口 英世
 帝國學士院賞 第六號 雲 養集 子爵 ×金允植
 同 第七號 蠶の遺傳研究 農學博士 ×外山 龜太郎

大正五年七月二日

恩賜賞 第十號 假名に關する研究 ×大矢 透
 同 第十一號 周公と其時代 文學博士 ×林 泰輔
 同 第十二、十三號

黃疸出血性スピロヘータ病に關する共同研究 醫學博士 ×井田 龍吉
 帝國學士院賞 第八、九、十、十一號 工學博士 ×鳥瀨 右一
 無線電信電話に使用する電氣振動間隙に關する 研究 北村 山井 英太
 同 第十二號 鐵に關する研究 理學博士 本多 光太郎

大正六年七月一日

恩賜賞 第十四號 日本歌學史及和歌史の研究 文學博士 佐々木 信 綱

同 第十五號 ラウエ映畫の實驗方法及其説明に關する研究 理學博士 寺 田 寅 彦

帝國學士院賞 第十三號 漆の主成分に關する研究 理學博士 眞 島 利 行

同 第十四號 スピネルの原子配置並に歪を受けたる物體のレントシエン線検査に關する研究 理學博士 西 川 正 治

大正七年五月十二日

恩賜賞 第十六號 宸記集及皇室御撰解題 和 田 英 松

同 第十七號 印度六派哲學 ×木 村 泰 賢

同 第十八號 植物界に於けるフラゾオン體の研究 理學博士 柴 田 桂 太

帝國學士院賞 第十五、十六號 日本住血吸蟲病の研究 醫學博士 桂 田 富 士 郎

醫學博士 藤 浪 鑑

桂公爵記念賞 第一號 日本經濟叢書 法學博士 瀧 本 誠 一

大正八年五月二十五日

恩賜賞 第十九號 相對性原理萬有引力論及量子論の研究 理學博士 石 原 純

帝國學士院賞 第十七號 漢字の研究(古籀篇) ×山 高 田 忠 周

同 第十八、十九號 癌の研究 醫學博士 市 川 極 勝 三 郎

同 第二十號 滿俺青銅其他の銅合金及鑄鐵の鑄造に關する研究 醫學博士 石 川 登 喜 治

大正九年四月三十日

恩賜賞 第二十號 法制史之研究 文學博士 ×三 浦 周 行

同 第二十一號 脂油の研究 工學博士 辻 本 滿 丸

帝國學士院賞 第二十一號 密教發達志 ×大 村 西 崖

同 第二十二號 音の異常傳播の研究 理學博士 藤 原 咲 平

桂公爵記念賞 第二號 臺灣植物の研究 理學博士 早 田 文 藏

大正十年五月二十二日

恩賜賞 第二十二號 日本佛教史之研究

同 第二十三號 腦の解剖的研究

帝國學士院賞 第二十三號 クモヒデトの研究

同 第二十四號 日本刀の研究

桂公爵記念賞 第三號 河豚の毒素の研究

大正十一年五月二十一日

恩賜賞 第二十四、二十五號 スタルク效果の研究

帝國學士院賞 第二十五號 生體染色法に就ての研究

同 第二十六號 傳動軸の振れ計の研究

大正十二年五月二十七日

恩賜賞 第二十六號 近世日本國民史

同 第二十七號 本朝文粹註譯

同 第二十八號 漢藥成分の化學的研究

文學博士 辻 善之助

醫學博士 布施 現之助

理學博士 松本 彦七郎

工學博士 倭 國 一

藥學博士 田原 良純

理學博士 高嶺 俊夫

理學博士 吉田 卯三郎

醫學博士 清野 謙次

工學博士 末廣 恭二

醫學博士 德富 猪一郎

×柿村 重松

藥學博士 朝比奈 泰彦

同 第二十九號 放射線に關する研究

理學博士 木下 季吉

大正十三年六月八日

恩賜賞 第三十號 長慶天皇御即位の研究

故文學博士 八代 國治

同 第三十一號

蛋白質及之を構成するアミノ酸の細菌に因る分解とアミノ酸の合成に關する研究

醫學博士 佐々木 隆興

帝國學士院賞 第二十七號

貨幣と價值並に經濟法則の論理的性質

法學博士 ×左右田 喜一郎

同 第二十八號 類脂肪體の研究

醫學博士 川村 麟也

同 第二十九、三十號 副營養素の研究

農學博士 ×鈴木 梅太郎

桂公爵記念賞 第四號 大日本金石史

×高橋 克己

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第一號

東京日日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第一號

和鏡聚英續和鏡聚英

同 第二號 放射線の研究に使用する膨脹器の研究

廣瀨 治兵衛

同 第三號

神經組織の炭酸發生並に炭酸の微量測定法に關する研究

醫學博士 田代四郎助

大正十四年五月三十一日

恩賜賞 第三十二號 三階教の研究

文學博士 矢吹慶輝

同 第三十三號

構造物の振動殊に其の耐震性の研究

工學博士 物部長穂

帝國學士院賞 第三十一號 白鼠に關する研究

畑井新喜司

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第四號

氣體の磁氣計數の測定

理學博士 曾禰武

大正十五年五月十六日

恩賜賞 第三十四號 日本紋章學

沼田頼輔

同 第三十五號

中國地方の古生層及中生層の層位學上の研究

理學博士 × 小澤儀明

帝國學士院賞 第三十二號

同 第三十三號

メシア思想を中心としたるイスラヘル宗教文化史 文學博士 石橋智信

宋末の提舉市舶西城人蒲壽庚の事蹟 文學博士 × 桑原隲藏

同 第三十四號

元良式船舶動搖制止装置の研究 工學博士 元良信太郎

同 第三十五號 オキシダーゼの組織學的研究 醫學博士 勝沼精藏

同 第三十六號 水銀避雷器の研究 工學博士 密田良太郎

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第五號

熱秤分析法の研究 工學博士 齋藤平吉

同 第六、七號

ビタミンB缺乏症の實驗的研究 醫學博士 島方知三郎

同 第八號

數種の日本産植物に關する化學的研究 理學博士 小松茂

昭和二年五月二十日

恩賜賞 第三十六號

唐宋時代に於ける金銀の研究(但し其の貨幣的機能を中心として)

文學博士 加藤 繁

同 第三十七號 金屬錯鹽の分光化學的研究

理學博士 柴田 雄次

帝國學士院賞 第三十七號

神經に於ける不滅衰傳導に關する研究

醫學博士 加藤 元一

帝國學士院賞 第三十八號

本邦産石油の成分並に應用に關する研究

工學博士 田中 芳雄

桂公爵記念賞 第五號 朝鮮植物の研究

理學博士 中井 猛之進

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第九號

特殊鋼ノ物理冶金學的研究

理學博士 村上 武次郎

同 第十號 微毒の起源に就て

醫學博士 x土肥 慶藏

昭和三年四月十四日

恩賜賞 第三十八號 租稅研究

法學博士 神戸 正雄

同 第三十九號

聯立積分方程式及び之に關聯せる函數論的研究

理學博士 掛谷 宗一

帝國學士院賞 第三十九號 日本歌謠史

文學博士 高野 辰之

同 第四十號 高速度艦船に關する研究

工學博士 平賀 讓

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第十一號

本邦産植物に含まるゝ數種のアルカロイドに關する研究

藥學博士 近藤 平三郎

昭和四年四月二十六日

恩賜賞 第四十號

地球及地殼の剛性並に地震動に關する研究

理學博士 志田 順

帝國學士院賞 第四十一號 極東颶風論

理學博士 堀口 由巳

同 第四十二號 東洋音樂の研究

田邊 尚雄

桂公爵記念賞 第六號 日本甲冑の新研究

山上 八郎

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第十二、十三、十四、十五號

醫學博士 二木 謙三

鼠咬症の研究

同 同 同 大谷 高木 真八

同 第十六、十七號

醫學博士 石原喜久太郎
同 太田原豊一

鼠咬症の實驗的研究

昭和五年五月十五日

恩賜賞 第四十一號

日本人の動脈系統

醫學博士 足立文太郎

帝國學士院賞 第四十三號

瀬戸内海の潮汐及潮流に關する研究

理學博士 小倉伸吉

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第十八號
東京日日新聞

小惑星の發見

及川奥郎

昭和六年五月十四日

恩賜賞 第四十二號

地震波の生成傳播其他に關する理論的研究

工學博士 妹澤克惟

帝國學士院賞 第四十四號

印度哲學研究 (全六卷)

文學博士 宇井伯壽

同 第四十五號

強磁性元素及び其の合金の物理冶金學的研究

理學博士 増本量

同 第四十六號

日本に於ける膽石症

醫學博士 三宅速

昭和七年五月十日

恩賜賞 第四十三號

アイヌ
敘事詩 ユーカラの研究

金田一京助

同 第四十四號

深處に發生せる地震に關する研究

理學博士 和達清夫

帝國學士院賞 第四十七號

本邦乳兒に於て屢々見らるゝ腦膜炎様病症の原

醫學博士 平井毓太郎

同 第四十八號

メダカ體色遺傳の研究

會田龍雄

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞
東京日日新聞

重力偏差及岩石磁性に關する地球物理學的研究

理學博士

松山基範

同 第四十九號

超短波長電波の研究

工學博士

宇田新太郎

メンデンホール記念賞 第一號

電子の廻折に關する研究

菊池正士

第二十八 補助研究事項 (自明治四十一年略之)

昭和六年度

一般資金ニ依ルモノ

ユスチーニアムス、欽定學說彙纂 第六卷邦譯

琉球諸島言語の研究

古劇研究、歌舞伎以前より元祿劇江戸中世劇迄の研究

日本兒童の宗教意識の研究

摩尼教特に支那に於ける摩尼教の研究

船田享二
宮良當壯
高野辰之
關野寬之
矢吹慶輿

切支丹部落の社會的研究

徳川初期我國在留天主教宣教師の編纂印行せし

日本字典及び文典に關する國語史的研究

支那古樂の一般的研究特に古樂に關する文獻の索引の作製

支那音樂特に樂律、樂器、樂曲等に關する研究

龍樹及びその時代を中心とせる初期大乘佛教の研究

關東大地震に於ける房總半島地殼變動の研究

大地溝帶地質構造

廻折格子の製作

固體間の反應速度に及ぼすラザウム放射線

火花の遅れ

北海道に於ける第三紀火山活動の層位學的研究

コンクリート強度を目的とするセメント試験方法

長鎖狀炭素化合物の結晶構造

纖維素凝固態の構造

新らしき容量分析方法

同會員

田北耕也 近藤國臣 布川壽 石井文雄 宮本正尊 末廣寅二 寺田實彦 小川不琢 本間瑞二 佐藤節治 朝野虎徳 田丸節郎 鳥山四男 濱上政敏 田中芳之 小田良之助 厚木勝基 宗宮尙行

補助研究事項

- インダンスレン熔融の化學に關する研究
- 九州有明海の魚類の研究
- 北部九州に於ける洪積期時代陸獸化石の研究
- 干滿潮線間に附着生活を行ふ動物特に穿岩性辨腮類の生態に關する研究
- アラバンの構造式に就て
- 天然絹絲の再生
- 寫眞乾板の感光性に關する研究
- 朝鮮に於ける寒武利亞系の層序學的研究
- 脊椎動物の染色體に關する研究
- 硝子狀態の研究

松方資金ニ依ルモノ

- 近江商人の研究
- 宗法の研究特に其の實狀の調査
- 本邦に於ける經營統制による産業合理化
- 本邦産昆布科の研究

會員

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|---------|-------|
| 宮部金吾 | 小島昌太郎 | 加藤常賢 | 菅野和太郎 | 澤井郁太郎 | 外内新太郎 | 中村道雄 | 宮田源逸 | 喜多田屹二 | 西田育作 | 雨宮壽雄 | 大佐谷四郎 | 徳永重康 | 富田山中一茂郎 | 牧田茂總夫 |
|------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|---------|-------|

- 胡蜂の遺傳研究、特に性の決定に就て
- 家蠶に於ける雄蛾の退化交尾器に關する遺傳學的研究
- 鷄に於ける性の決定及び分化の研究
- 日本産植物蟲癭研究
- カボチャの黄色色素の研究
- 馬の傳染性流産の感染機轉並に其の豫防法
- 野生菊屬諸種の遺傳研究
- 稻の成長期中各週に於ける成長量の變化に就て
- 大豆に含有さるゝ新アミノ酸カナニンに就て
- 植物の種々の生理作用と其の營養體部に現はるゝ色素との關係
- アラシカ屬の細胞學及實驗遺傳學的研究

大毎資金ニ依ルモノ

- 朝鮮及滿州に於ける巫俗の研究
- 琉球語大辭典
- 地震の前後に發生する地形變動の研究
- 小惑星の運動に就て

補助研究事項

會員

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-----|------|------|------|------|------|-------|-------|----|------|------|------|------|
| 町田次郎 | 梅谷與七郎 | 増井清 | 門前弘多 | 杉野晴貞 | 葛西勝彌 | 野原茂六 | 植田幸輔 | 北川松之助 | 小坂俊太郎 | 盛永 | 赤松智隆 | 伊波普猷 | 今村明恒 | 平山清次 |
|------|-------|-----|------|------|------|------|------|-------|-------|----|------|------|------|------|

補助研究事項

太陽大氣の一般循環に關する統計的研究

小池資金ニ依ルモノ

朝鮮北部山間地方に於ける地方病的骨關節疾患(土疾)

腦間に於ける諸核機能に關する實驗的研究

細菌に於けるエネルギー發生反應の研究

表面活性質の生化學

抗毒素血清の濃縮

麻刺利亞傳播蚊の習性

神經系統の新陳代謝の研究

心臟刺戟傳達系の生理に關する研究

淋巴管系の研究

組織體外培養の研究特に同法に依る細菌學並に血清學の研究

惡性腫物(特に肉腫)の病理特に組織發生に就て

單一筋纖維の收縮及クロナキシに關する研究

ピウレット反應速度に及ぼすラザウム放射線

淋巴球及淋巴系統の研究

本邦風土及風習に對する和洋兩服裝の衛生學的研究

微毒の實驗的研究殊に潜伏性微毒の諸問題

古籀篇資金ニ依ルモノ

朝鮮文學史及朝鮮學人文集の研究

支那古代銅器及び其の銘文の研究

支那文字の研究

計 六九件

昭和七年度

一般資金ニ依ルモノ

ユスチーニアアノス帝欽定學說彙纂第八卷邦譯

粉本佛像曼荼羅類の調査並に研究

補助研究事項

關	小	籾	藤	柿	湯	鈴	小	中	小	加	原	磯	石	木	外	
口	川	崎	田	野	濱	木	鳥	込	泉	藤	島	村	原	原	村	
鯉	乾	宜	秋	三	健	三	久	三	元	義	二	本	信	卓	究	
吉	源	治	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	員

會員

會員

藤	橋	富	長	外	外	松	多	飯	船	小
浪	田	田	與	田	本	島	藤	島	野	野
邦	雅	又	正	信	忠	忠	虎	玄	玄	玄
彦	次	郎	郎	一	夫	夫	郎	妙	妙	妙

- 古劇の研究 (歌舞伎以前より元祿劇江戸中世劇迄の研究)
- 國語方言の研究特に中國地方方言資料の蒐集整理
- 琉球語大辭典
- 朝鮮土俗資料蒐集並に其の研究
- 日本人の本原的宗教觀念
- 切支丹部落の社會的研究
- 琉球諸島言語の研究
- 徳川初期我邦在留天主教宣教師の編纂印行せし日本辭典(ホルトガルト文)に關する國語史的研究
- テオフィルスの儒帝法學提要 希臘語義解 第一卷、第二卷 邦譯
- 北九州に於ける先史時代特に金石並用期文化の研究
- 九州方言の研究
- 幼兒行動の發達的研究 第一、一歳兒行動の系統的觀察
- 第三紀以後に於ける珊瑚礁及造礁珊瑚の研究
- 偏光寫眞器の製作
- 酸性白土の理論化學的研究
- 埼玉縣地震に關し水準測量に依る地殻運動の研究

高野辰之	東條操	伊波普猷	孫晉泰	原田敏明	田北耕也	宮良當壯	近藤國臣	原田慶吉	島田貞彦	吉町義雄	岩井勝二郎	會員 矢部長克	會員 平山信	會員 小山久	會員 林研一	同會員 末廣恭彦
------	-----	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	-------	---------	--------	--------	--------	----------

- コバルトを主成分とする耐熱合金の研究、特にコバルト、クロム、タングステン及コバルト、クロム、モリブデン三元合金に就いて鋼中に含まれたる諸元素のX線的分析の研究
- 本邦産昆布科の研究
- 生物發光の研究
- 膠質系の電氣界擾亂に關する研究
- 不飽和脂肪酸及其の利用に關する研究
- 新容量分析法
- コンクリート強度を目的とするセメント試験方法
- プロペラー唧筒、プロペラー水車並に船舶のプロペラーに關する研究
- 本邦新期第三紀層中に發達する硫黄鑛床及び其に伴ふ黄鐵鑛々床の研究
- アラバンの構造式に就て
- 九州に於ける昆蟲の分布
- 朝鮮に於ける寒武利亞系の層序學的研究
- 松方資金ニ依ルモノ
- 摩尼教特に支那に於ける摩尼教の研究
- 龍樹及びその時代を中心とする初期大乘佛教の研究

橋本宇一	志村繁隆	岡田金吾	志方益三	丸山文勉	鈴木文助	宗宮尙行	濱田稔	内丸最一郎	加藤武夫	西田屹二	江崎悌三	中村新太郎	矢吹慶輝	宮本正尊
------	------	------	------	------	------	------	-----	-------	------	------	------	-------	------	------

補助研究事項

視外微生物殊に其の植物病理學關係に就ての研究
 アシナガバチの遺傳特に性の決定に就て
 キク科植物の遺傳學的研究
 大麥畑に於ける連續灌水の効力に就ての研究
 鶏に於ける性の決定及分化に關する研究
 野生菊屬諸種の遺傳研究
 不稔性植物の細胞學的並に遺傳學的研究
 稻の成長期中各週に於ける成長量の變化に就て
 本邦産ウドンコ菌科の研究
 昆蟲行動の實驗的研究特に「學習」過程に就て
 纖維素纖維の生成及生長の機構
 富山灣の魚類の研究
 日本産杉科植物の分類解剖學的研究
 生理的及生化學的領域に於ける新研究法「組織粉末法」の應用に就いて
 シュズガケ鳩に於ける遺傳の研究
 育種の基礎としての數種細胞的研究

三宅市郎
 町田次郎
 池野成一郎
 吉川祐輝
 増井清
 野原茂六
 竹中要
 植田宰輔
 本間ヤス
 湯淺八郎
 林淺八郎
 厚木勝基
 富田中一
 佐竹義輔
 額下正治
 丹下正治
 香川冬夫

大毎資金ニ依ルモノ

本邦産蜜柑の農業地理學的研究
 朝鮮及滿洲に於ける巫俗の研究
 中古莊園制の研究
 地震に先驅して起る地形變動
 中央日本の水河作用

小池資金(一部醫學)ニ依ルモノ

ピウレット反應を呈するオキシアミノ化合物の研究
 異種細菌の作用、特に其の生體の抵抗力並に
 細菌性發熱に及ぼす影響に關する研究
 癌腫と肉腫の細胞學的差異に關する研究
 キモレニンに關する繼續研究
 朝鮮家屋の衛生學的研究特に溫突(オンドル)煖房法に就て
 間腦に於ける諸核機能に關する實驗的研究
 朝鮮に於ける血液型の研究
 細菌のエネルギー發生反應に關する研究

補助研究事項

山崎直樹
 赤松智隆
 西岡虎之助
 今村明恒
 小川琢治
 富田雅次
 額山彌市
 米山英夫
 小室英夫
 古武彌四郎
 綿引朝光
 二宮朝光
 篠崎哲四郎
 稻田哲四郎
 佐藤三武
 藤外秋治

補助研究事項

組織培養法の研究、特に同法を應用したる細菌學的研究

淋巴管系の研究

本邦風土及風習に對する和洋兩服裝の衛生學的研究

潜伏性微毒及無微候性微毒の實驗的研究

口蓋の比較發生

古籙篇資金ニ依ルモノ

支那小説の整理と解説

支那古樂の一般的研究特に古樂に關する文獻の索引の作製

支那音樂特に樂律、樂器、樂曲等に關する研究

支那文字の研究

計 七一件

一一二

〔木外〕共同研究者 廉

〔木外〕原卓三 名郎

〔戸外〕田正 名三

松本 信一

井上 通夫

辛島 壽 聰

布川 壽

石井 文雄

飯島 忠夫

第二十九

有栖川宮記念獎學資金受領者トシテ

高松宮家へ補助推薦ノ研究事項 (自昭和二年略之至同五年略之)

昭和六年五月推薦

國語の表現法と日本人の思想形態に就ての研究

列聖及び皇族御撰の研究

心學教化と藩費教育との關係

日本石器時代文化の研究

昭和六年十二月推薦

室町時代に於ける琉球朝鮮及び支那との關係

東洋特に日本の建築技術に關する歴史的研究

城戸 幡太郎

和田 英松

石川 謙

〔松八〕幡村 一 郎 瞭

秋山 謙藏

藤島 亥次郎

第三十 東照宮三百年祭記念會へ補助推薦ノ

究研事項 (自大正五年略之)

昭和六年二月推薦

- 本邦天文古記録の蒐集
- 寺院門前町の研究
- 稲の開花に對する外界の影響に就て
- 蟋蟀科昆蟲に於ける細胞學的並に遺傳學的の研究
- 電氣探鑽法に就て
- 鋼中に含まれたマンガンニツケルクロームX線の定量分析の研究
- 静岡縣下の第三紀層
- 日光山中諸湖の生物學的調査
- アサガホの諸器官に於ける色素生成に關する生理遺傳學的研究
- 禾穀類に於ける遺傳學的並に細胞學的實驗
- キシムシロ屬に於ける遺傳學的核學的研究

神平 山田清
 立平 花沼嘉淑
 野口 彌吉
 大町 文衛
 藤田 義象
 志村 繁隆
 榎山 次郎
 宮地 傳三郎
 荻原 時雄
 西木 山原直昌
 下斗米

朝鮮に於ける血液型の研究

北部日本に於ける氣候的土壤帶の研究に就て

細胞及核の分裂の機構

牛乳の組成に關する研究

コペル反應に依る高級炭化水素の合成

昆蟲の營養生理

小麦蛋白に關する研究

本邦産密柑の農業地理學的研究

接觸觸媒作用の物理化學的研究

昭和七年二月推薦

- 寺院門前町の研究
- 本邦内地、朝鮮及び滿洲に於ける農民生活程度の比較研究
- 本邦天文古記録の蒐集

佐藤 三宅康三
 外田 遠文喜以康
 篠田 邦文喜以康
 保井 健邦コ文喜以康
 藤井 英治 興
 佐平 木塚 元林英治 興
 松井 元林英治 興
 篠田 田 統
 近藤 藤 金 助
 山崎 直 樹
 堀場 泰信 圭
 平沼 淑 皓
 那須 清 茂
 神平 田 清 茂

藤田男爵獎學費受費者

有機ゼレン化合物に就て

細胞及び核の分裂の機構

亞酸化銅（船底塗料原料）の製造

東洋古銅器の化學的研究

コルベ反應に依る高級炭化水素の合成

静岡縣下の第三紀層

日光山中諸湖の生物學的調査

禾穀類に於ける細胞並に遺傳學的實驗

〔前項學術研究資金及研究費補助事項ニ關シ研究者ノ報告等ハ毎年別ニ〕
〔學術研究獎勵資金及事業一覽〕ヲ以テ刊行ス

西	宮	橫	松	山	渡	藤	保	和	篠	橫
木	地	山	井	小	邊	井	井	田	遠	田
山	傳	次	元	內	俊	健	コ	文	喜	嘉
原	三	郎	興	松	次	次	郎	吾	人	勝
市	郎	郎	興	茂	雄	郎	郎	門	門	左
均	均	均	均	均	均	均	均	均	均	衛

第三十一 藤田男爵獎學費受費者（自大正七年略之）

昭和六年六月

羅馬法學獎學費

京都帝國大學大學院學生

小早川欣吾

採鑛冶金學及關係學科獎學費

京都帝國大學大學院學生

小坂玄伍

第三十二 子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品

受品者（自大正七年略之）
（至昭和五年略之）

昭和六年六月

早稻田大學法學部法律學科學生

增田秀雄 施添福 井澤俊

第三十三 役員

大正十五年二月十七日	院 長	理學博士	櫻 井 錠 二
昭和五年七月一日	幹 事	文學博士	姊 崎 正 治
大正十五年三月二十日	第一部長	法學博士	富 井 政 章
昭和五年七月一日			
大正十五年十二月二十一日			
昭和五年七月一日			
昭和五年七月一日			

子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品受品者 役員

大正十三年七月一日
昭和二年七月一日
昭和五年七月一日

第二部々長

醫學博士

佐藤三吉

第三十四 會員及客員

一會

員

(*印ハ東京學士會院會員トナレル年月日ニシテ明治三十九年六月十二日孰モ帝國學士院會員ト改マル)

* 明治十八年十二月十五日	第二部	醫學博士	三宅秀
* 同三十一年四月十七日	第二部	理學博士	櫻井錠二
* 同三十二年二月十二日	第二部	理學博士	小藤文次郎
* 同三十三年六月三十日	第一部	文學博士	坪井九馬三
* 同三十五年十二月十四日	第二部	醫學博士	小金井良精
同三十九年九月十四日	第二部	工學博士	古市公威
同	第二部	男爵	田中館愛橘
同	第一部	法學博士	富井政章
同	第一部	男爵	土方寧

明治三十九年九月十四日	第二部	理學博士	藤澤利喜太郎
同	第二部	醫學博士	三浦謹之助
同	第二部	理學博士	長岡半太郎
同	第一部	法學博士	一木喜徳郎
同	第一部	文學博士	上田萬年
同	第一部	文學博士	三上參次
同	第一部	文學博士	金井延
同	第一部	法學博士	佐藤三吉
同	第二部	醫學博士	平山信
同	第一部	理學博士	美濃部達吉
同	第一部	法學博士	石川千代松
同	第二部	文學博士	高楠順次郎
同	第一部	文學博士	山崎覺次郎
同	第一部	文學博士	服部宇之吉

會員及客員

大正六年十二月二十六日	第一部	法學博士	小野塚喜平次
同七年六月二十五日	第二部	理學博士	水野敏之
同	第一部	法學博士	織田萬
同八年二月二十八日	第二部	理學博士	池田菊苗
同九年三月二十六日	第一部	文學博士	白鳥倉吉
同九年十二月五日	第一部	文學博士	松本文三郎
同九年五月一日	第一部	法學博士	春木一郎
同十年十月二十七日	第二部	理學博士	三好學
同十年十一月二十九日	第一部	法學博士	立作太郎
同十年十二月二十八日	第二部	醫學博士	荒木寅三郎
同十年一月二十四日	第一部	文學博士	松本亦太郎
同十一年四月七日	第二部	理學博士	佐々木忠次郎
同十一年十二月二十六日	第二部	理學博士	本田光太郎
同十二年三月十日	第二部	工學博士	高松豐吉

大正十二年五月三日
 同年十一月二十八日
 同十四年二月三日
 同年四月八日
 同年六月二十七日

同	第二部	醫學博士	宮入慶之助
同	第一部	文學博士	姊崎正治
同	第一部	法學博士	田島錦治
同	第一部	文學博士	市村瓊次郎
同	第二部	藥學博士	田原良純
同	第一部	法學博士	橫田秀雄
同	第一部	農學博士	新渡戶稻造
同	第一部	法學博士	德富猪一郎
同	第二部	工學博士	伊東忠太郎
同	第一部	文學博士	狩野直喜
同	第二部	農學博士	吉川祐輝
同	第二部	理學博士	丘淺次郎
同	第一部	法學博士	安達峰一郎
同	第二部	理學博士	中村清二

會員及客員

會員及客員

一三四

昭和三年二月一日	第一部	文學博士	新村	出
同年 四月六日	第一部	法學博士	高田	早苗
同年 五月一日	第二部	醫學博士	稻田	龍吉
同四年四月二十二日	第一部		佐伯	胤
同年 十一月十一日	第二部	醫學博士	藤浪	鑑
同五年一月九日	第二部	理學博士	宮部	金吾
同年 四月一日	第二部	藥學博士	朝比奈	泰彦
同年 五月二十六日	第二部	醫學博士	足立	文太郎
同	第一部	文學博士	藤井	乙男
昭和五年八月九日	第一部	法學博士	神戶	正雄
同六年一月三十一日	第一部	文學博士	和田	英松
同年 四月一日	第二部	理學博士	岡田	武松
同年 六月十五日	第一部	文學博士	濱田	耕作
同年 十二月五日	第二部	農學博士	古在	由直

二客員

昭和七年三月二日	第二部	理學博士	神津	俣祐
同年 六月一日	第二部	醫學博士	森島	庫太

昭和三年五月十二日
同四年四月十二日
同六年六月十二日

シムオン レヴィ
Sylvain Lévi
アルフレッド イウイング
Sir Alfred Ewing
ハンス モリス
Dr. Hans Molisch

第三十五 各部分科並二定員

第一部	第一分科——法律學、政治學、經濟學	定員 二十五人
	第二分科——哲學、史學、文學	定員 二十五人
第二部	第一分科——星學、數學	定員 七人

各部分科並二定員

一二五

- 第二分科——物理學、化學 定員 十一人
- 第三分科——地球物理學、地質學 定員 八人
- 第四分科——生物學、醫學 定員 十六人
- 第五分科——工學、農學 定員 八人

第三十六 委員、事業擔當會員、囑託員

一 帝國學士院紀事及別冊出版委員

大正十五年三月二十日	委員長	文學博士	姊崎正治
昭和二年七月一日	編纂主任	醫學博士	三浦謹之助
昭和五年七月一日	同	理學博士	長岡半太郎
自明治四十四年六月十二日	同	理學博士	平山信
至昭和二年七月一日	委員	理學博士	美濃部達吉
昭和五年七月一日	同	法學博士	石川千代松
大正十四年九月十九日	同	文學博士	高楠順次郎
昭和二年七月一日	同	文學博士	松本亦太郎
昭和五年七月一日	同	農學博士	吉川祐輝
大正十四年九月十九日	同	理學博士	今村明恒
昭和二年七月一日	同	工學博士	俵國一
昭和五年七月一日	同	農學博士	鈴木梅太郎
大正十四年九月十九日	同	理學博士	高木貞治
昭和二年七月一日	同	理學博士	小川琢治
昭和五年七月一日	同	法學博士	山崎覺次郎

二 學術研究獎勵金運用委員

大正十五年四月十二日	同	文學博士	高楠順次郎
昭和二年七月一日	同	文學博士	松本亦太郎
昭和五年七月一日	同	農學博士	吉川祐輝
大正十四年九月十九日	同	理學博士	今村明恒
昭和二年七月一日	同	工學博士	俵國一
昭和五年七月一日	同	農學博士	鈴木梅太郎
大正十四年九月十九日	同	理學博士	高木貞治
昭和二年七月一日	同	理學博士	小川琢治
昭和五年七月一日	同	法學博士	山崎覺次郎
昭和三年二月十四日	委員長	文學博士	姊崎正治
同	委員	法學博士	富井政章
同	同	醫學博士	佐藤三吉

委員、事業擔當會員、囑託員

昭和三年二月十四日	同	法學博士	山崎覺次郎
同	同	法學博士	加藤正治
同	同	工學博士	倭國一
同	同	法學博士	矢作榮藏
同四年七月九日	同	文部省會計課長	河原春作

三 和算史調査

大正六年十月十二日	擔當會員	理學博士	藤澤利喜太郎
昭和四年五月二十二日			長澤正治

四 帝室制度ノ歴史的研究

大正九年三月十六日	擔當會員(主任)	文學博士	三上參次
同十五年二月主任推薦			美濃部達吉
同九年三月十六日	同	法學博士	服部宇之吉
同十一年二月二十五日	同	文學博士	和田英松
昭和六年二月十三日	同	文學博士	山本信哉
大正九年五月二十五日	囑託員	文學博士	

大正九年九月六日

同

田邊勝哉

同年 十月五日

同

淺野長武

同十一年二月十七日

同

文學博士

諸橋轍次

同十二年四月二十六日

同

龍橋次

同十三年十一月一日

同

芝葛盛

同十四年一月三十一日

同

黒井大圓

同

同

藤原猶雪

同

同

高橋隆三

同二年十月二十日

同

武田政一

五 我邦ト歐洲諸國トノ交通史料ノ蒐集及研究

昭和四年四月十二日	擔當會員	文學博士	坪井九馬三
同 三月一日	囑託員		板澤武雄

六 北畠親房及ビソノ子孫ノ事蹟研究

昭和二年二月十二日	擔當會員	文學博士	三上參次
-----------	------	------	------

委員及事業擔當會員、囑託員

事務職員

昭和二年四月二十三日

囑託員

伊木壽一

七 インドネジャ慣習法辭典編纂

昭和四年三月十二日

擔當會員

文學博士

姊崎正治

同年 四月一日

囑託

宇野圓空

同五年四月一日

同

櫻井時雄

同六年四月一日

同

古野清人

同五年四月一日

同

高月昭人

第三十七 事務職員

昭和六年六月五日

主事

文部書記官

石丸優三

明治四十二年十二月八日

書記

金坂周次

昭和四年四月十五日

囑託

古野清人

同五年七月三十一日

同

砂子茂

大正十五年六月十二日

同

市橋靜子

同

三谷よし枝

昭和五年三月三十一日

同二年三月十七日

津田虎雄

同六年六月十五日

住吉武

第三十八 帝國學士院前役員

(×印ハ死亡者)

院長

自明治三十九年八月至同 四十二年六月

文學博士 男爵 ×加藤弘之

自明治四十二年七月一日至大正六年八月二十日

理學博士 男爵 ×菊池大麓

自大正六年十月二十日至同十四年十月十二日

法學博士 男爵 ×穂積陳重

自大正十四年十一月十七日至同 十四年十二月二十三日

法學博士 男爵 ×岡野敬次郎

幹事

自明治三十九年八月至同 四十二年六月

文學博士 ×重野安釋

自明治四十二年七月至大正 二年七月

法學博士 ×宮崎道三郎

帝國學士院前役員

自大正二年七月十一日
至同十五年二月十七日

第一部々長

理學博士 櫻井錠二

自明治三十九年七月十二日
至大正六年十月二十日

法學博士 男爵 穂積陳重

自大正六年十一月二十四日
至同十五年十一月十八日

文學博士 井上哲次郎

第二部々長

自明治三十九年八月
至同四十二年六月

理學博士 男爵 菊池大麓

自明治四十二年七月一日
至大正十年六月三十日

工學博士 男爵 古市公威

自大正十年七月一日
至同十三年六月三十日

理學博士 藤澤利喜太郎

第三十九

帝國學士院前會員及客員

(×印ハ死亡者)

一 前會員

自明治三十九年六月十二日
至同四十年八月十四日

子爵 福羽美靜

自明治三十九年六月十二日
至同年八月三十日

文學博士 黒川真頼

自明治三十九年六月十二日
至同年十月三日

文學博士 根本通明

自明治三十九年六月十二日
至同年十二月廿二日(後昭和六年六月二十六日死亡)

理學博士 山川健次郎

自明治三十九年十月二十四日
至同四十二年三月十一日

文學博士 佐藤誠實

自明治三十九年六月十四日
至同四十二年二月十八日

醫學博士 橋本綱常

自明治三十九年九月十七日
至同四十二年九月二十五日

理學博士 箕作佳吉

自明治三十九年九月十四日
至同四十三年八月二十五日

法學博士 梅謙次郎

自明治三十九年六月十二日
至同四十三年十二月六日

文學博士 重野安釋

自明治三十九年六月十二日
至同四十四年六月十五日

男爵 大鳥圭介

自明治四十一年二月二十六日
至同四十四年九月六日

工學博士 下瀬雅允

自明治三十九年九月十四日
至同大正元年十月五日

法學博士 穂積八東

自明治三十九年九月十四日
至大正元年十二月十三日

文學博士 元良勇次郎

帝國學士院前會員及客員

自明治三十九年九月十四日
至大正二年二月十五日
自明治三十九年六月十二日
至大正二年四月十四日
自明治三十九年九月十四日
至大正二年五月二十六日
自明治三十九年九月十四日
至大正五年二月九日
自明治三十九年六月十二日
至大正五年六月二十二日
自明治三十九年六月十二日
至大正六年八月二十日
自明治三十九年九月十四日
至大正六年九月十日
自明治三十九年六月十二日
至大正六年十二月四日
自明治三十九年九月十四日
至大正六年十二月二十四日
自明治四十一年八月四日
至大正七年四月七日
自明治三十九年九月十四日
至大正七年十二月二十一日

文學博士 × 本居 豐 穎
文學博士 × 木村 正 辭
理學博士 × 坪井 正 五 郎
醫學博士 × 三浦 守 治
文學博士 男爵 × 加藤 弘 之
男爵 × 田中 芳 男
理學博士 男爵 × 菊池 大 麓
文學博士 × 星野 恒
法學博士 × 杉 享 二
醫學博士 男爵 × 青山 胤 通
醫學博士 × 隈川 宗 雄
文學博士 × 中島 力 造

自明治三十九年六月十二日
至大正八年五月十二日
自明治三十九年六月十二日
至大正八年八月一日
自明治四十年六月二十八日
至大正八年十一月十二日
自明治三十九年九月十四日
至大正八年十一月二十一日
自明治四十二年二月四日
至大正九年九月十三日
自明治四十年四月九日
至大正九年十月六日
自明治三十九年九月十四日
至大正十年三月十四日
自明治四十一年五月二十六日
至大正十年十二月十五日
自大正二年六月二十二日
至同十一年七月二十二日
自明治四十二年四月二十二日
至大正十二年二月二十五日
自明治三十九年六月十二日
至大正十二年七月二十日
自明治三十九年六月十二日
至大正十二年八月六日

文學博士 × 三島 毅
醫學博士 × 緒方 正 規
法學博士 × 松崎 藏 之 助
理學博士 × 久原 躬 弦
法學博士 × 高橋 作 衛
文學博士 子爵 × 末松 謙 澄
文學博士 × 飯島 魁
法學博士 × 岡松 參 太 郎
工學博士 × 高峰 讓 吉
工學博士 × 高井 口 在 屋
文學博士 男爵 × 細川 潤 次 郎
理學博士 × 寺尾 壽

帝國學士院前會員及客員

自明治三十九年九月十四日
至大正三十二年八月十五日
自明治三十九年九月十四日
至大正三十二年十二月八日
自大正三十五年四月二十一日
至同十三年二月二日
自明治三十九年九月十四日
至大正三十四年十二月二十三日
自明治三十九年六月十二日
至大正三十五年四月八日
自明治三十九年六月十二日
至大正三十五年十一月十八日
自明治三十九年六月十二日
至昭和二年一月十日
自大正四年三月二十四日
至昭和二年二月六日
自明治三十九年九月十四日
至昭和二年十一月九日
自明治三十九年九月十四日
至昭和二年十一月九日
自明治三十九年六月十二日
至昭和三年二月十七日
自明治三十九年六月十二日
至昭和三年四月十八日
自明治四十年五月二十六日
至昭和三年五月四日

法學博士 子爵 × 田尻 稻次郎
理學博士 × 大森 房吉
文學博士 × 萩野 由之
法學博士 男爵 × 岡野 敬次郎
法學博士 男爵 × 穂積 陳重
文學博士 井上 哲次郎
醫學博士 × 大澤 謙二
文學博士 × 芳賀 矢一
文學博士 × 南條 文雄
文學博士 × 大槻 文彦
法學博士 × 宮崎 道三郎
理學博士 × 松村 任三

自大正三十二年十一月十四日
至昭和三年五月二十一日
自明治三十九年九月十四日
至昭和四年二月十日
自大正七年三月二十五日
至昭和四年五月十四日
自大正十四年六月二十七日
至昭和四年七月二十六日
自大正七年三月二十五日
至昭和四年十月三十一日
自大正十四年六月二十七日
至昭和四年十一月十一日
自大正十四年六月二十七日
至昭和四年十一月二十二日
自明治四十一年十一月二十八日
至昭和五年一月三日
自大正八年四月二十九日
至昭和五年三月二日
自大正十一年四月七日
至昭和五年五月八日
自大正十四年六月二十七日
至昭和六年三月三日
自明治三十九年九月十四日
至昭和六年六月十三日

醫學博士 × 野口 英世
理學博士 × 長井 長義
藥學博士 × 伊藤 隼三
醫學博士 × 山崎 直方
理學博士 × 村上 專精
文學博士 × 三宅 米吉
文學博士 × 岸上 鎌吉
理學博士 × 中村 精男
醫學博士 × 山極 勝三郎
法學博士 × 福田 德三
文學博士 × 大塚 保治
醫學博士 男爵 × 北里 柴三郎

元東京學士會院役員

一三八

自昭和二年七月四日
至同 七年四月九日
自昭和三年五月二十一日
至同 七年五月二十六日

工學博士 × 末廣 恭二
文學博士 × 關根 正直

二 前客員

自明治三十九年六月二十二日
至同 四十四年六月二十七日
自大正十四年十二月十二日
至昭和六年三月十六日

× ギュスターヴ ボアソナード
× Gustave Boissonade de Fontarabie
× サール チャーレス エリオット
× Sir Charles Eliot

第四十 元東京學士會院役員 (×印ハ死亡)

會長

自明治十二年一月
至同年 六月
自明治十二年六月 至同 十三年十二月
自明治十五年六月 至同 十九年六月
自明治十三年十二月 至同 十五年七月
自明治十九年六月 至同 二十九年一月
自明治三十一年一月 至同 三十九年八月
自明治二十九年一月
至同 三十年十二月

× 福澤 諭吉
× 西 周
文學博士 男爵 × 加藤 弘之
× 細川 潤次郎

副會長

自明治十四年九月
至同 十五年七月
自明治十五年六月
至同 十八年六月

× 西 周
× 神田 孝平

幹事

自明治十八年六月
至同 十九年六月
自明治十八年六月
至同 十九年六月
自明治十九年六月
至同 二十年九月
自明治十九年六月
至同 二十年九月
自明治二十年九月
至同 二十六年九月
自明治二十年九月
至同 二十六年九月
自明治二十年八月
至同 二十六年八月
自明治二十六年八月
至同 三十一年十二月
自明治三十一年十二月
至同 三十三年四月

× 加藤 弘之
× 神田 孝平
× 箕作 秋坪
× 大鳥 圭介
× 細川 潤次郎
文學博士 × 重野 安釋
× 杉 享二
文學博士 × 外山 正一

元東京學士會院役員

一三九

元東京學士會院會員及客員

自明治三十三年四月 至同 三十四年七月
自同 三十八年十二月 至同 三十九年八月
自明治三十四年十二月 至同 三十八年十二月

理學博士 男爵

× 菊池大麓

× 田中芳男

第四十一 元東京學士會院會員及客員

一 會

員

(△ハ文部大輔ヨリ會員報帖ヲ交付セラレシ者、○印ハ勅選ニ係ル者其他ハ會長ヨリ報帖ヲ交付セラレシ者、×印ハ死亡ノ者)

自明治十二年六月十五日 至同 十四年一月十五日
自明治十二年一月十五日 至同 十四年二月十五日 (後明治三十四年二月三日死亡)
自明治十二年五月十五日 至同 十四年二月十五日 (後明治三十八年四月十六日死亡)
自明治十二年三月一日 至同 十五年三月二十九日
自明治十四年五月十五日 至同 十五年十月五日
自明治十二年一月十五日 至同 十九年十二月三日
自明治十二年六月十五日 至同 二十二年二月十二日

× 阪谷素

△ × 福澤諭吉

× 小幡篤次郎

× 内田五觀

× 鷺津宣光

× 箕作秋坪

子 △ × 森有禮

自明治十二年一月二十八日 至同 二十二年七月十九日

自明治十五年十一月七日 至同 二十三年一月十日

自明治十二年一月十五日 至同 二十四年六月七日

自明治十八年十一月二十五日 至同 二十五年七月二十七日

自明治十二年一月十五日 至同 二十五年十月十五日

自明治十八年九月十六日 至同 二十六年六月七日

自明治二十二年十月十三日 至同 二十八年二月十八日

自明治十五年六月六日 至同 二十八年十月十一日

自明治十二年五月十四日 至同 二十九年二月二日

自明治十二年一月十五日 至同 三十年二月一日

自明治十二年三月十五日 至同 三十年三月六日

自明治十三年三月十五日 至同 三十年十二月一日

△ 文學博士 × 杉田玄端

△ 文學博士 × 村上英俊

△ 文學博士 × 村正直

△ 文學博士 × 村坦山

△ 文學博士 × 津田眞道

○ 伯爵 × 寺島宗則

○ 文學博士 × 岡松甕谷

○ 文學博士 × 小中村清矩

○ 文學博士 × 川田剛

△ 男爵 × 西本鋤周

△ 男爵 × 栗本鋤雲

△ 法學博士 男爵 × 箕作麟祥

元東京學士會院會員及客員

自明治十二年一月十五日
至同 三十一年七月五日
自明治二十五年一月十日
至同 三十一年八月廿七日
自明治二十二年二月十五日
至同 三十二年八月廿六日
自明治二十年二月十三日
至同 三十三年三月八日
自明治十二年二月十五日
至同 三十四年一月二十四日
自明治十二年三月一日
至同 三十五年八月十八日
自明治十八年九月十六日
至同 三十九年五月二十三日
自明治十二年一月十五日
至同 三十九年六月十二日
自明治十二年四月二十八日
至同 三十九年六月十二日
自明治十五年五月十五日
至同 三十九年六月十二日
自明治十二年五月十五日
至同 三十九年六月十二日
自明治十二年五月二十八日
至同 三十九年六月十二日

(後明治四十四年五月十三日死亡)

△ 男	文學博士	× 島田	孝平
○ 子	文學博士	× 市川	兼禮
△ 文學博士	男爵	× 外山	正一
○ 文學博士	男爵	× 伊藤	圭介
△ 文學博士	男爵	× 西村	茂樹
○ 文學博士	男爵	× 谷村	干城
△ 文學博士	男爵	× 加藤	弘之
○ 文學博士	男爵	× 杉	享二
△ 文學博士	男爵	× 細川	潤次郎
○ 文學博士	男爵	× 重野	安釋
△ 文學博士	男爵	× 福羽	美靜

自明治十四年六月十一日
至同 三十九年六月十二日
自明治十四年十一月七日
至同 三十九年六月十二日
自明治十八年十一月十五日
至同 三十九年六月十二日
自明治十八年十二月十五日
至同 三十九年六月十二日
自明治十八年六月十二日
至同 三十九年六月十二日
自明治十八年十二月十五日
至同 三十九年六月十二日
自明治十八年六月十二日
至同 三十九年六月十二日
自明治二十二年四月十四日
至同 三十九年六月十二日
自明治二十三年六月八日
至同 三十九年六月十二日
自明治二十八年五月一日
至同 三十九年六月十二日
自明治二十九年一月十二日
至同 三十九年六月十二日
自明治二十九年六月十二日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十年五月九日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十年六月十二日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十一年二月十三日
至同 三十九年六月十二日

男	爵	× 大鳥	圭介
文學博士	× 黒川	真頼	
文學博士	× 三島	毅	
文學博士	× 田中	芳男	
醫學博士	三宅	秀	
理學博士	男爵	× 菊池	大麓
文學博士	× 木村	正辭	
文學博士	井上	哲次郎	
醫學博士	× 大澤	謙二	
法學博士	× 穂積	陳重	
理學博士	× 箕作	佳吉	
醫學博士	× 緒方	正規	

自明治三十一年四月十七日 至同 三十九年六月十二日	理學博士 櫻井 錠二
自明治三十一年十二月十一日 至同 三十九年六月十二日	法學博士 × 宮崎道三郎
自明治三十二年二月十二日 至同 三十九年六月十二日	理學博士 小藤文次郎
自明治三十三年一月十四日 至同 三十九年六月十二日	文學博士 × 根本通明
自明治三十三年六月三十日 至同 三十九年六月十二日	文學博士 坪井九馬三
自明治三十四年五月六日 至同 三十九年六月十二日	理學博士 × 山川健二郎
自明治三十五年十二月十四日 至同 三十九年六月十二日	醫學博士 小金井良精
自明治三十六年十二月十三日 至同 三十九年六月十二日	理學博士 × 寺尾 壽
自明治二十八年四月廿五日 至同 三十九年六月十二日	× <small>ギユスターヴ</small> Gustave Boissonade <small>ボアソナード</small> de Fontarabie <small>ド</small> Fontarabie

二 客 員

第四十二 昭和七年五月十日第二十二回授賞式
に於ける櫻井院長の演説

閣下並に各位。

本日第二十二回授賞式を舉行するに當り、内閣總理大臣閣下、宮内大臣閣下、文部大臣閣下を初めとし各位の御來臨を辱ふしたるは本院の最も光榮とする所でありまして、茲に會員一同に代り深厚なる謝意を表します。

さて本日の授賞目的物は七件でありまして、其の詳細なる説明は之を「授賞審査要旨」と題せる小冊子に譲ることと致しますが今試に其の要點を約述致しますならば。

金田一京助君の著書「ユーカラの研究」はアイヌの長篇敘事詩を精細に攻究してアイヌの文學的語學的方面に多大の貢獻を爲したるのみならず、廣く比較文學史並に比較言語學の上に裨益する所あり更に我國古典の發達と童話の起原との史的研究に光明を與ふるものであり、

和達清夫君の「深處に發生せる地震に關する研究」は震央に於ける初期微動繼續時

間の長短に依て震原の深淺を知ることが得しめ、而も近距離の地震に就ての測定に基くものであるが故に確實性に富み地震學の研究上一大進歩を來したるものであり、

平井毓太郎君の「本邦乳兒に於て屢々見らるる腦膜炎様病症の原因に就ての研究」は臨床的考察化學分析分光分析等各方面より精査したる結果、久しく其の本性を明にすること能はざりし該病症が鉛中毒より來れるものであることを明にし、進んで其の治療並に豫防の途を開き以て醫學の進歩に貢献したるものであり、

會田龍雄君の「メダカ體色遺傳の研究」はメダカの染色體内に一種の遺傳因子の存在することを發見し、更に進んで其の因子と他の劣性因子との間に因子交換現象のあることを證明したるものであり、

松山基範君の「重力偏差及岩石磁性に關する地球物理學的研究」は一面にはヤル―ト島撫順炭坑櫻島附近諏訪盆地等の各地に於ける重力偏差を測定し之に依り地質構造に關する種々の有益なる推測を下だし、他の一面には岩石自然附磁の方向に關し顯著なる事實を發見したるものであり、

宇田新太郎君の「超短波長電波の研究」は無線電信界に於て海外諸國の研究に先ん

じて學術上及應用上無線電信の發達に貢献したる所多く、而も波長一米以下の所謂極超短波長の電波に依る無線通信の到達距離に新記録を出だせるものであり、

菊地正士君の「電子の廻折に關する研究」は最近物理學界に一大革命を齎したる波動力學が理論上要求する所の電子廻折の實象を巧妙なる方法に依て撮影することに成功し初めて波動力學に明確なる實驗證明を與へ、而も甚複雑なる電子廻折象を分析考察して完全なる説明を與へたるものであります。

以上の如き何れも成績卓絶なる研究に對して授賞を行ひ以て勤勉篤學の士の功績を表彰することは本院の目的に最もよく副ひ、之に依り學術の發達と教化の進運とに貢獻する所頗る大なるものあるべきは信じて疑はざる所であります。而して此の授賞は獨り受賞者諸君の名譽であるのみならず、實に我學界の一大慶事でありまして、茲に滿腔の祝意を表します。

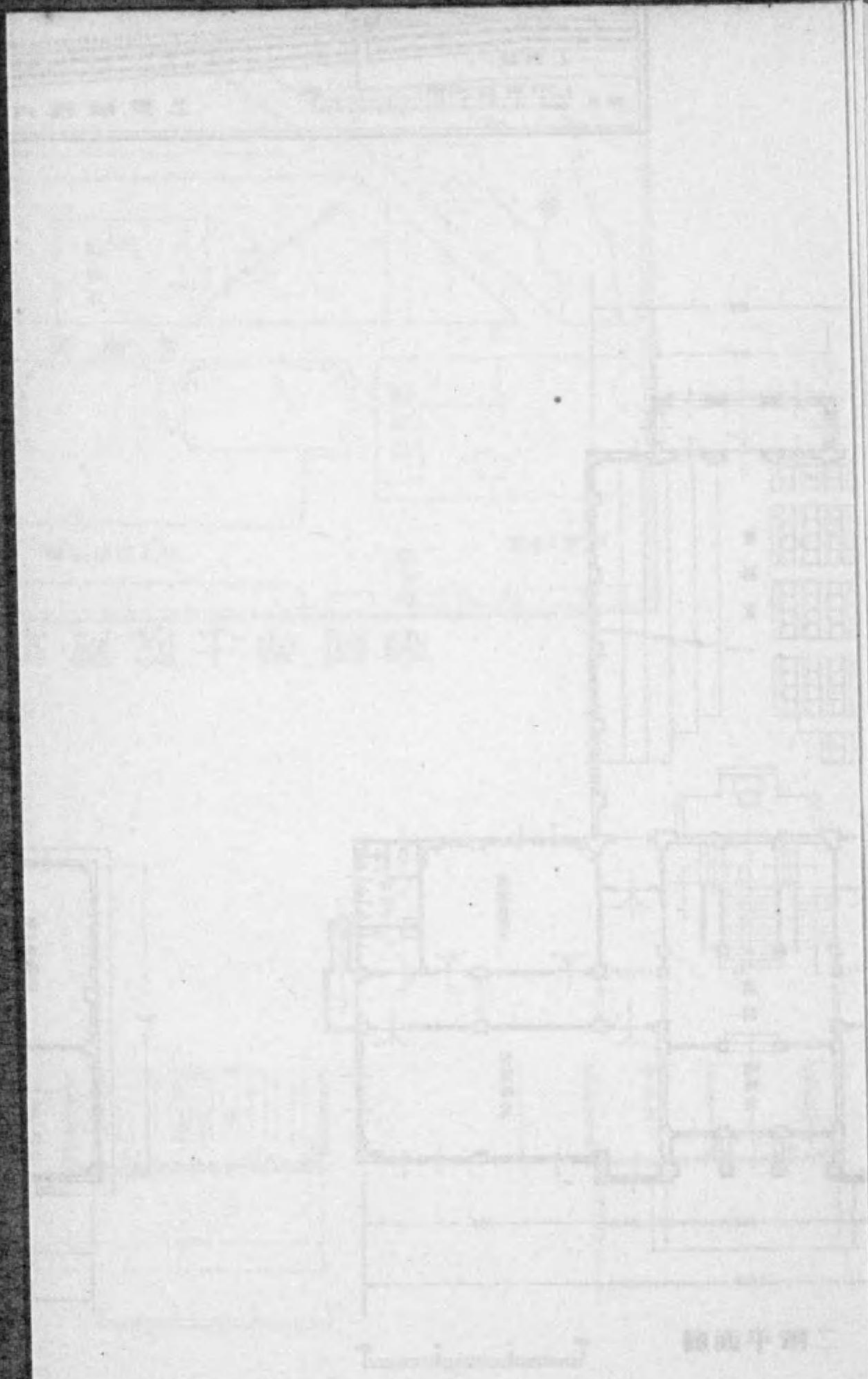
今回菊池正士君の受けらるる「メンデンホール記念賞」は本年初めて授與する所のものであります。が故に少しく説明を加ふることの御許を得たいと思ふのであります。米國人故トーマス・メンデンホール君は我政府の招聘に應じ明治十一年より數年間新

設の東京大學に於て學生の養成に努力し我邦の學術發達に大なる貢獻を爲したる人でありまして、其の關係を記念せんが爲故人の遺言に係る寄附金を以て設定せられたるものが即ち「メンデンホール記念賞」であります。而して此の賞は物理學又は天文學上顯著なる貢獻を爲したる者に數年間に一回之を授與することに相成て居りますが、故人が東京大學在職中特に懇親を結ばれたる當時の理學部長即ち故菊池男爵の令息正士君が本賞の最初の受賞者となられたることは眞に奇縁と申すべきであります。

本日賞を受くべき者尙一名ある筈でありましたる處、授賞決議のあつたる後其の一名は本院會員仰付けられ、而して本院授賞規則第四條に「賞は帝國學士院會員に非ざる者に之を授く」とある其の明文に照し總會は其の一名に限り授賞せざることに決定したのであります。授賞規則第四條の立法精神に鑑み更に前例に照すときは此の決定には尙多くの疑問がある様に考へられますが、今日の場合如何ともすること能はざる所であります。

本院が學術研究獎勵の爲授賞を行ふ外、尙重要な研究の達成を援助して居りますことは御承知の通でありますが、本年度に於ては各方面より申出の事項中より七十一ことは従來通であります。

斯の如く、本院が種々有益なる事業を行ひ之に依り其の目的とする所の學術の發達と教化の進運とに貢獻することを得るは第一に皇室の學術御獎勵に關する優渥なる思召に依る所でありまして常に感激の至りに堪へず責任の甚だ重きを感じる次第であります。又第二には篤志家諸氏の御好意御援助に依る所でありまして是等諸氏に對しては常に感謝の念を禁ずること能はざる所であります。皇室の御下賜金及篤志家諸氏の寄附金並に之に依り本院が行ふ所の事業の詳細は「學術研究獎勵資金及事業便覽」と題せる小冊子に就て御一覽を願ふことと致します、而して昨年は匿名の一篤志家の供託ありたる趣を以て三井信託株式會社より寄附の申出があり之に依て本院の收入は毎年五千圓を増加することと相成、又最近に至り鈴木三郎助氏より本院學術研究獎勵資金の方へ金參拾萬圓の寄附があり、是等の爲に本院の事業が更に擴張さるるに至りましたることを此の機會に於て御披露申上ることは本職の欣幸とする所であります。



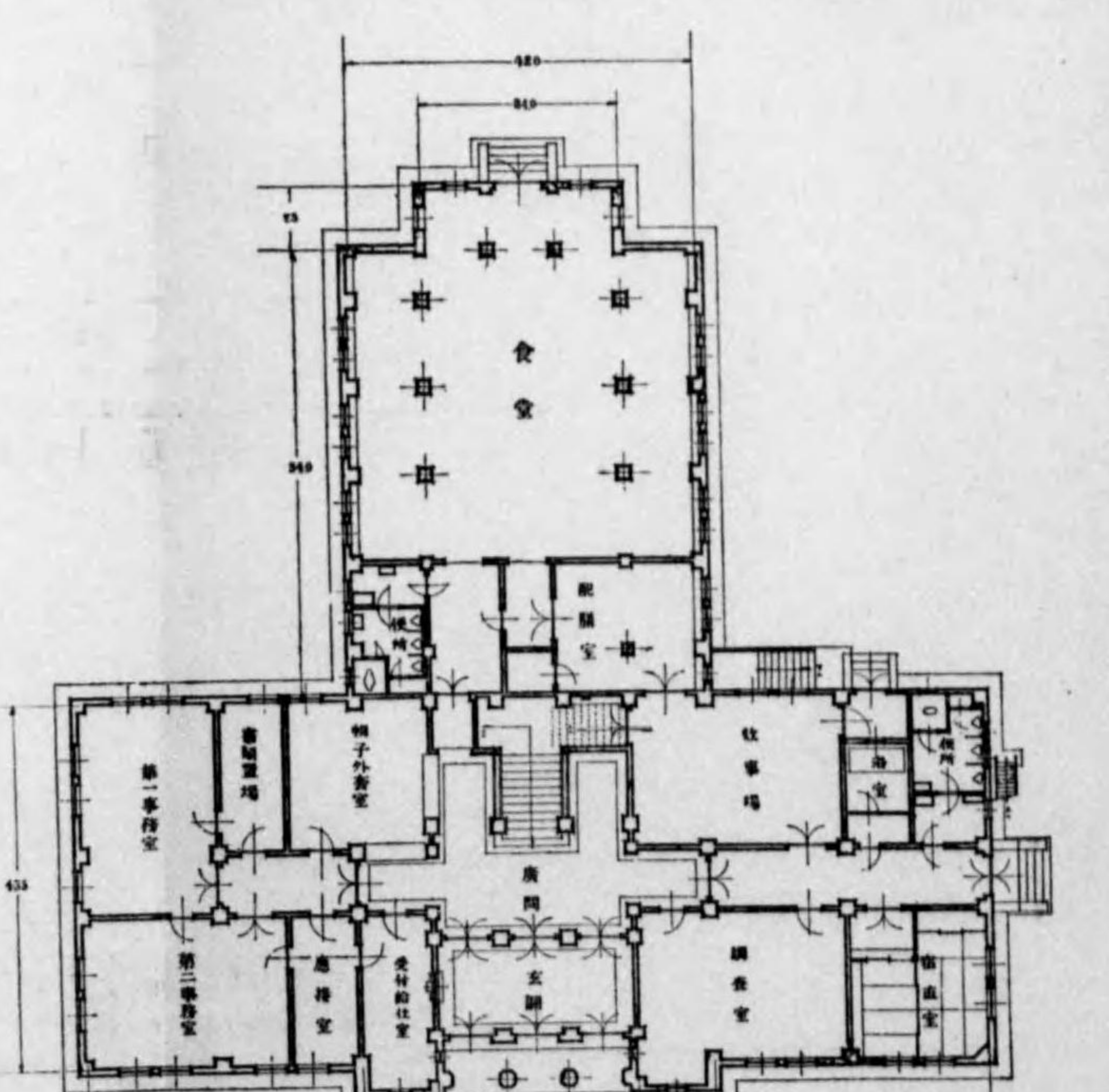
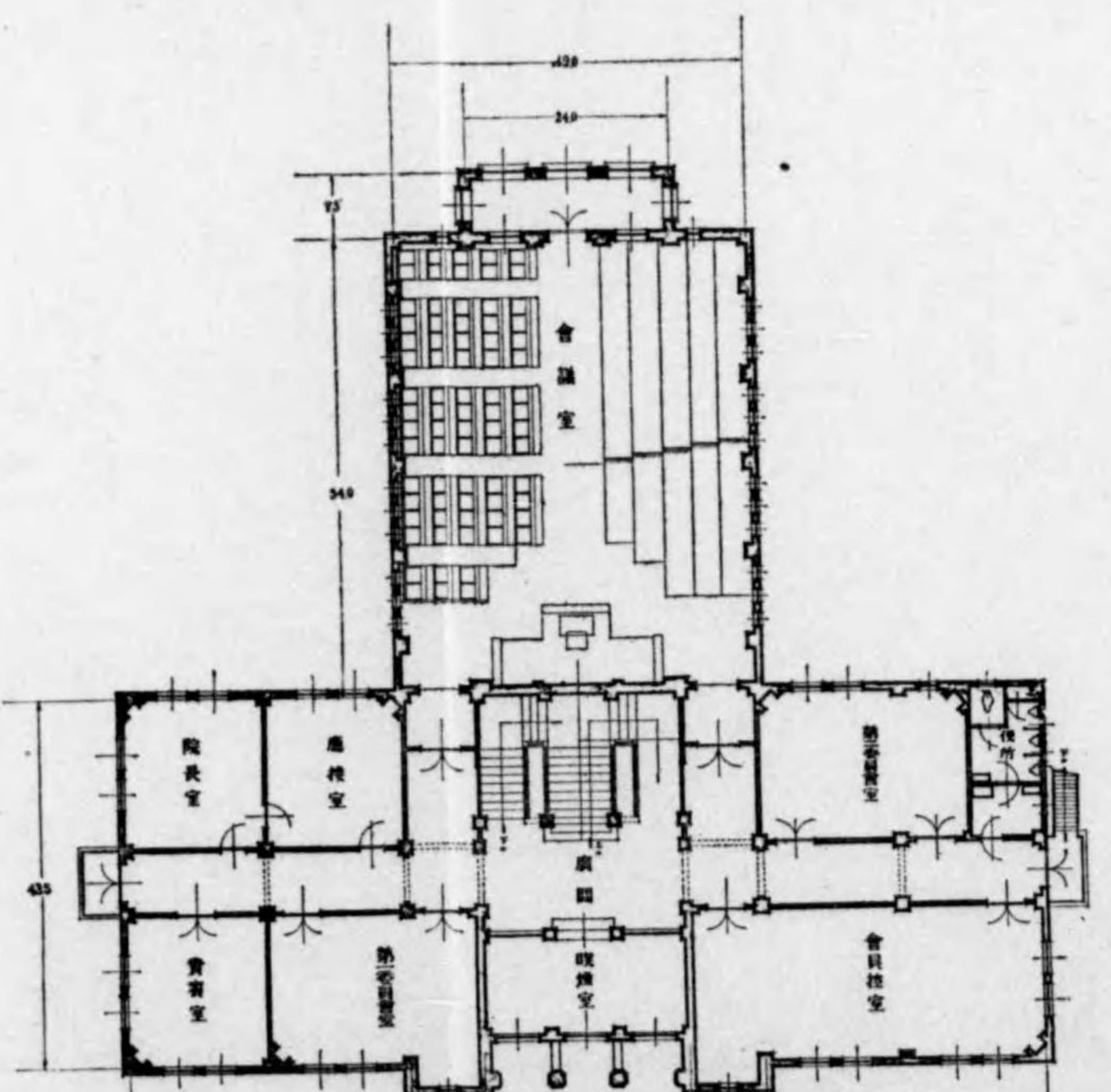
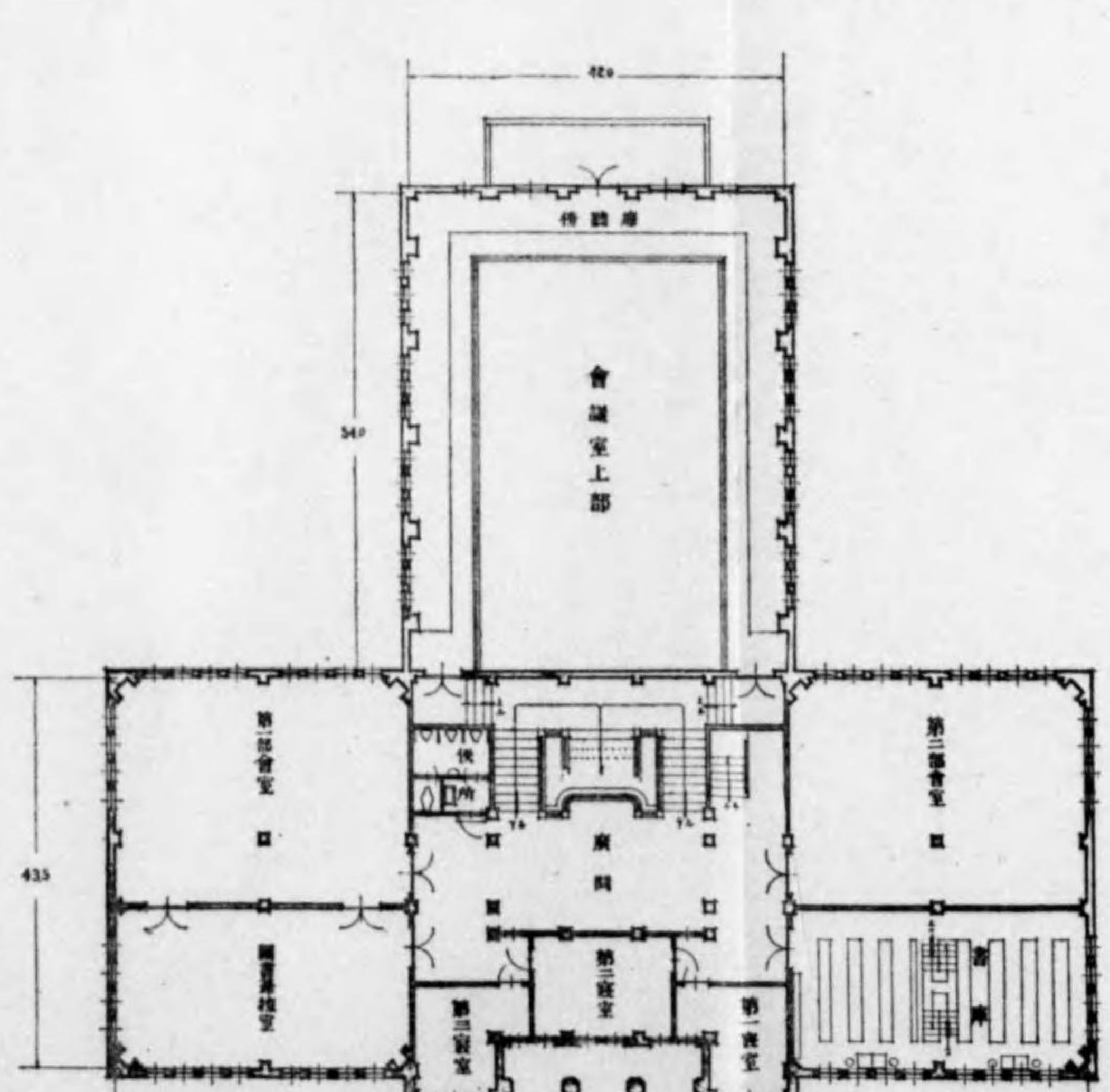
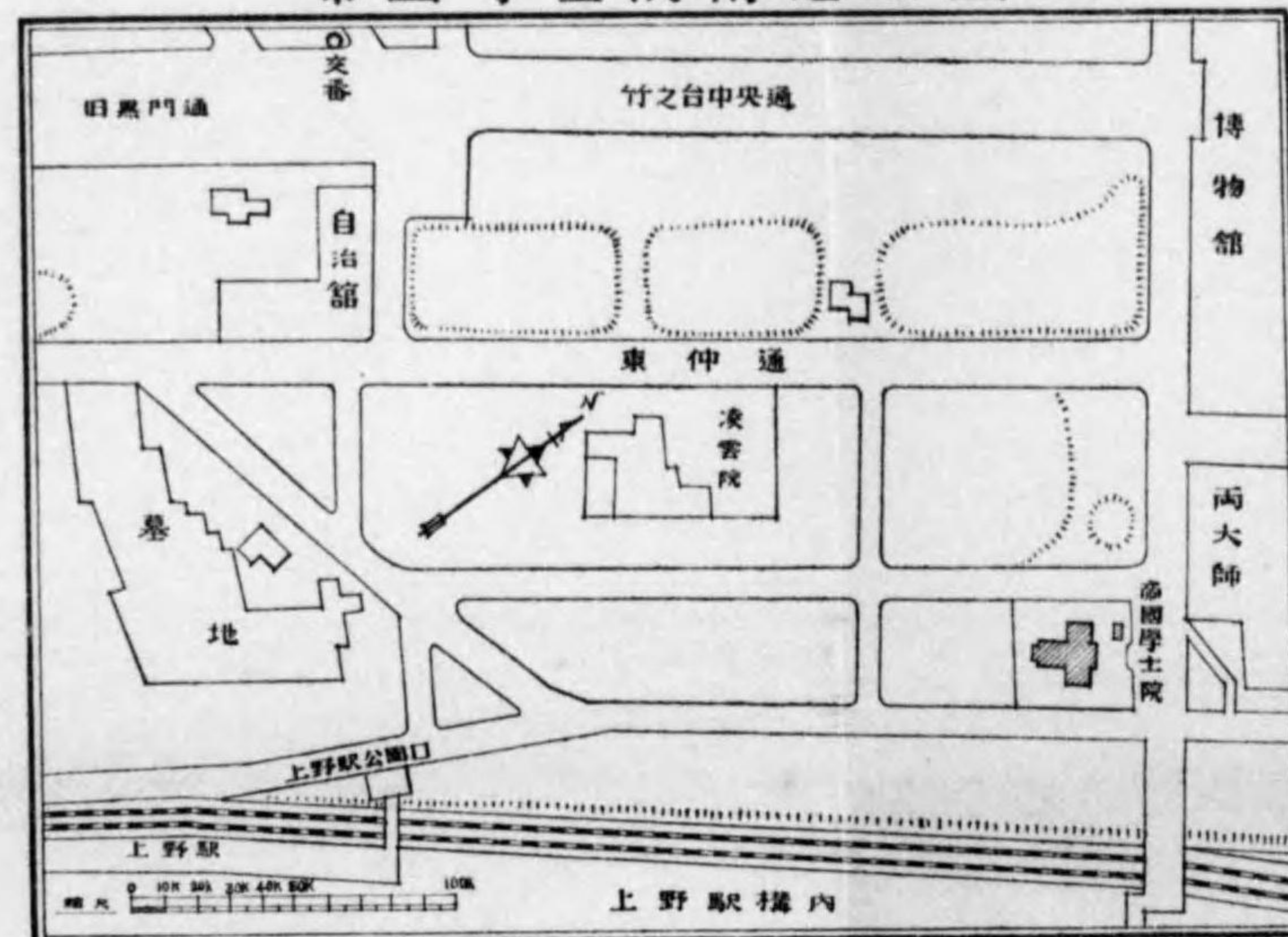
圖說半部二

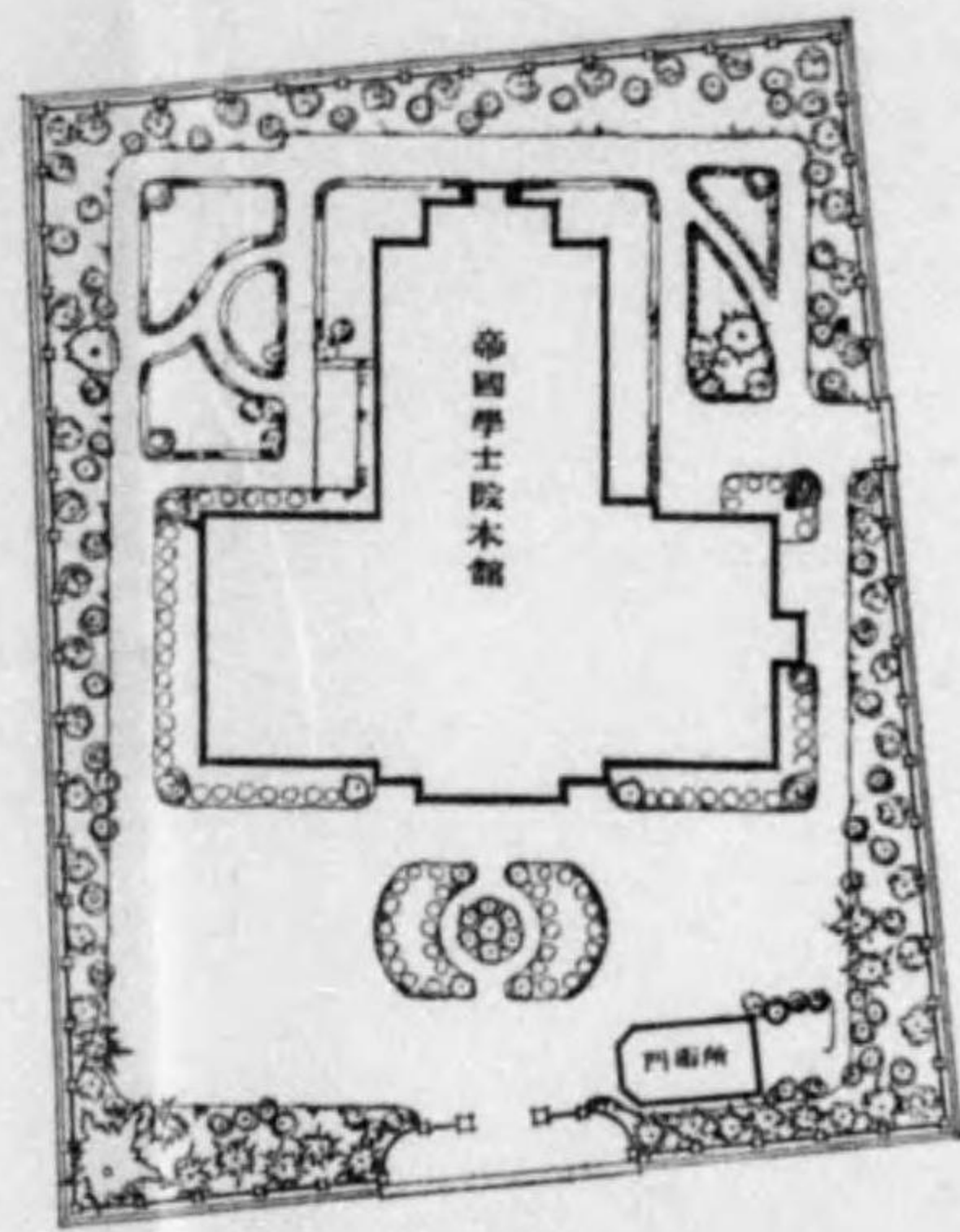
此圖係某建築之平面圖，其結構與佈局如下：
 一、入口大門位於右側，直通中央走廊。
 二、中央走廊寬敞，設有樓梯及多個門戶。
 三、左側為多個房間，包括辦公室、會議室及休息區。
 四、右側為另一組房間，佈局較為複雜，包含多個小隔間。
 五、後方設有廚房、廁所及儲藏室等服務性空間。
 六、建築外圍設有圍牆及綠化帶，環境優美。
 七、圖中標註了各房間之名稱及尺寸，以利於施工與管理。
 八、此圖為建築師之設計草案，尚需進一步之審核與修改。



帝國學士院配置圖

帝國學士院附近略圖

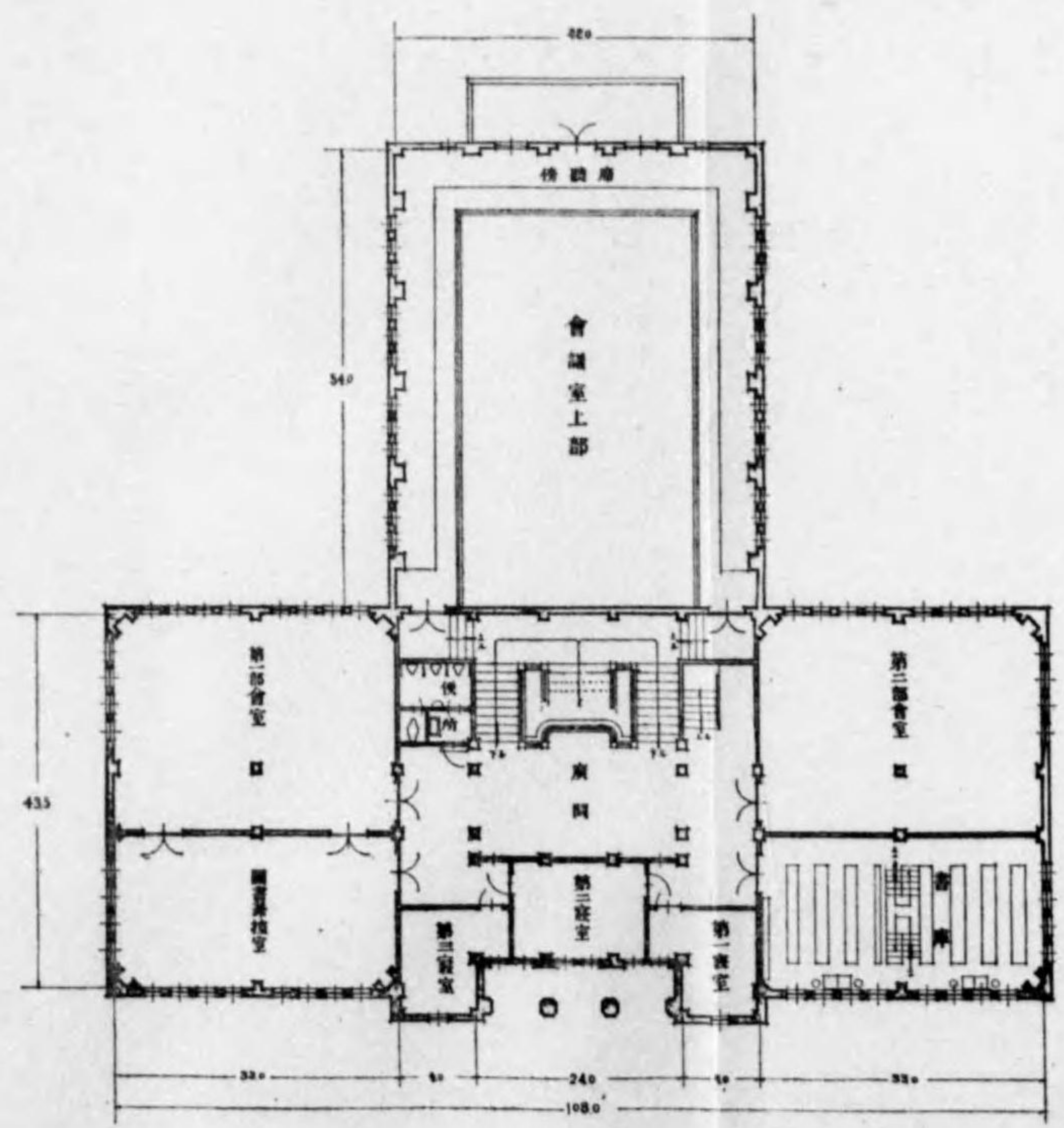
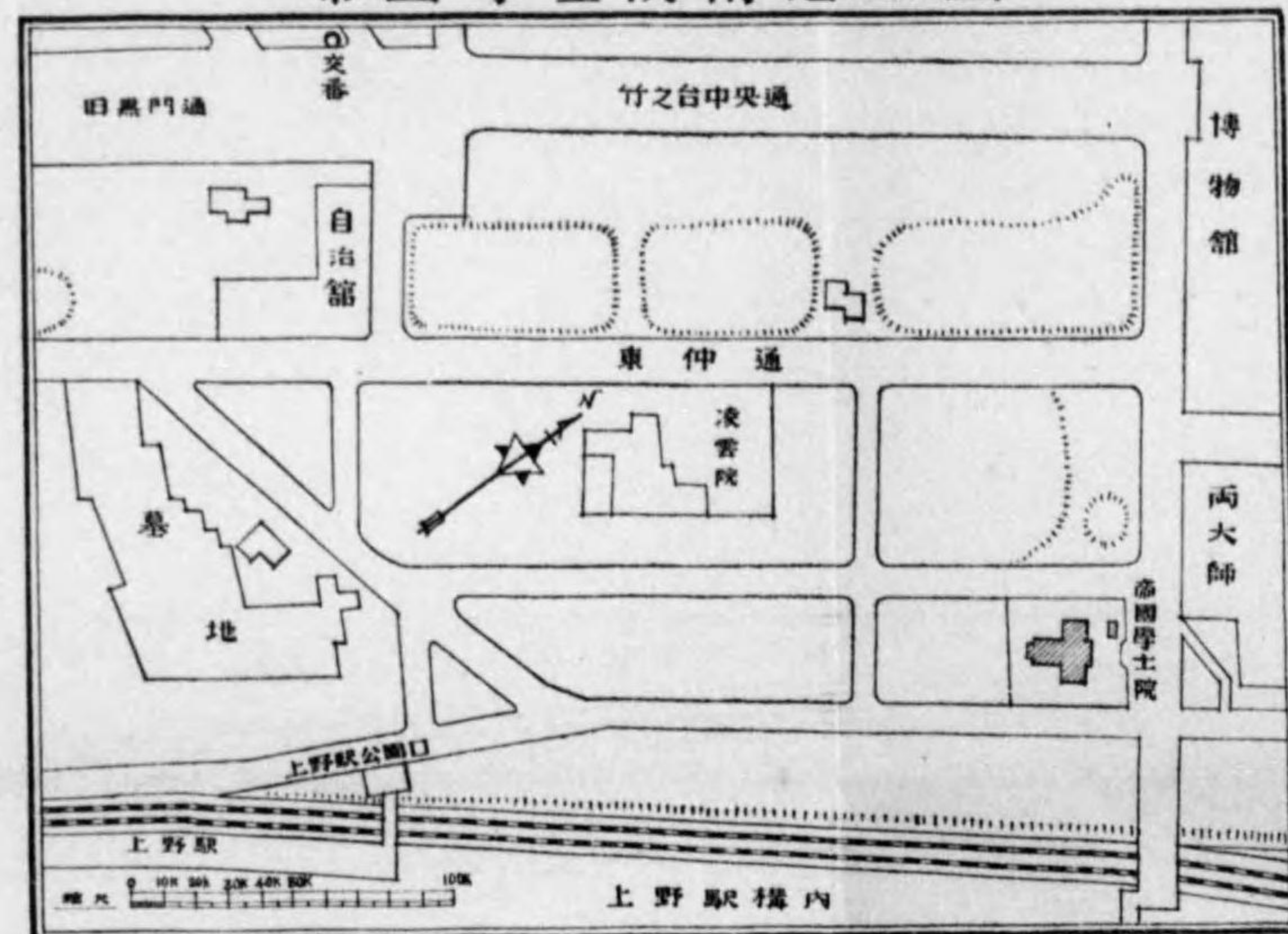




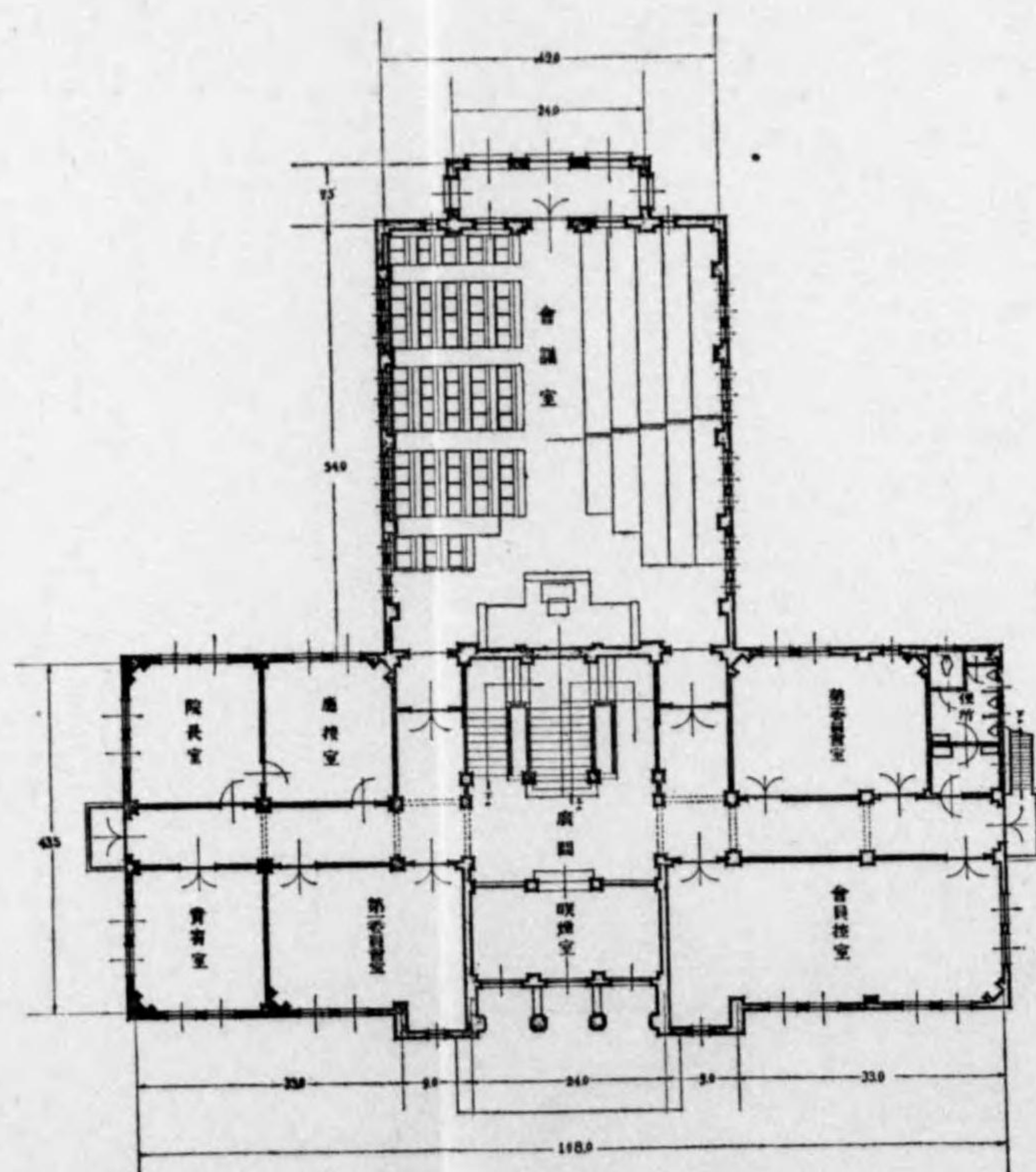
帝國學士院配置圖



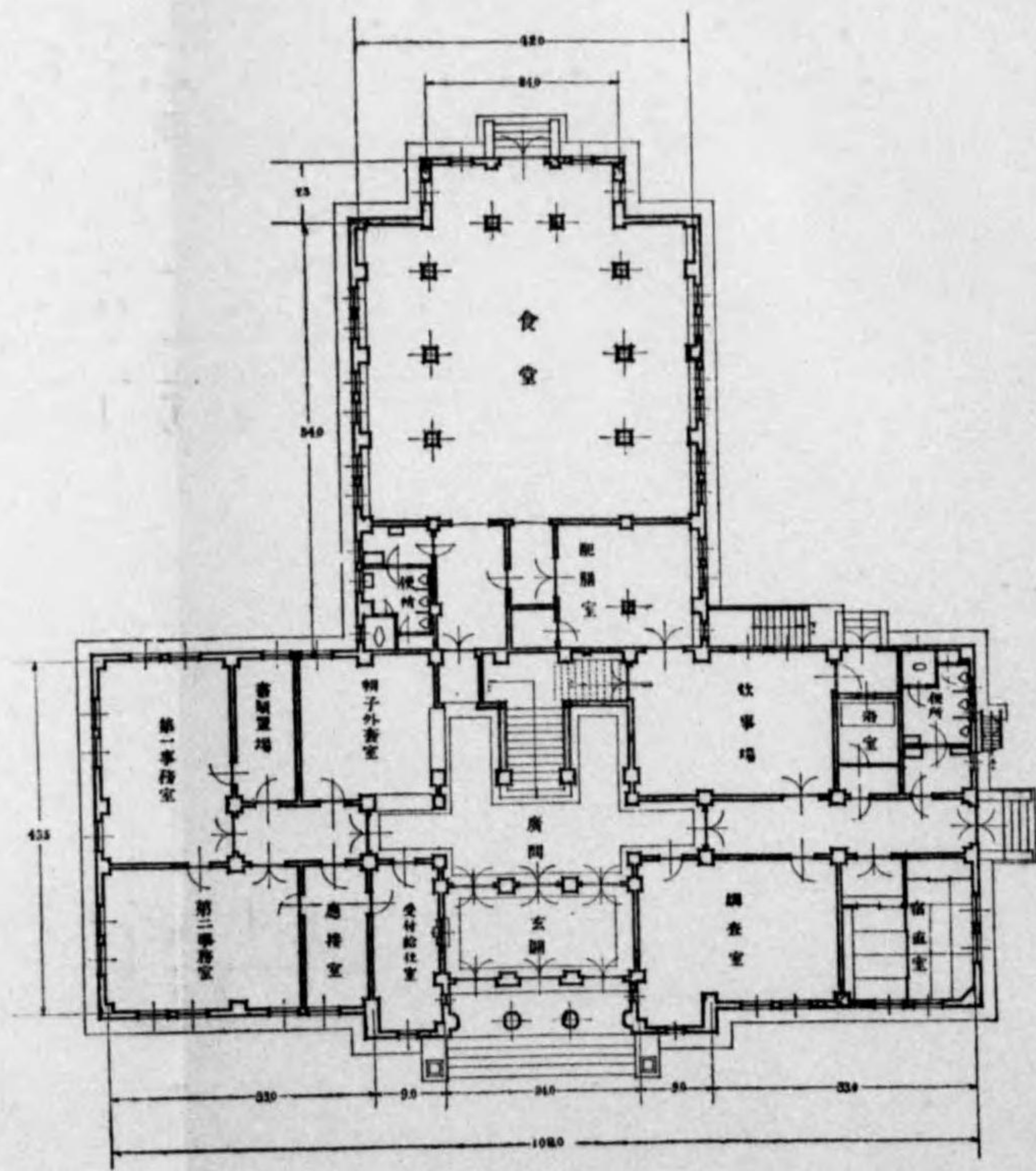
帝國學士院附近略圖



三階平面圖



二階平面圖



一階平面圖

昭和七年六月

東京市下谷區上野公園地

帝國學士院

電話下谷(83)四〇番

457



終

